大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

14

２０１０年11月

大 阪 府 教 育 委 員 会

はじめに

大阪府内における埋蔵文化財の調査と保護に関しては、日頃より皆様のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。大阪府では、近年、公共事業の見直しや行財政改革などにより、大規模な開発事業は減少傾向にありますが、その一方で道路拡幅や歩道設置、既存建物の耐震補強・エレベーター設置などの小規模事業が相対的に増加しています。そのため埋蔵文化財に対するより綿密な対応が求められているところです。また、埋蔵文化財に対する社会的要請の高まりに伴って普及・公開事業などの要望もますます増加しつつあります。

ところで、府内には、約 8,500 の遺跡が存在しますが、これまで開発に伴い数多くの発掘調査を実施してきました。その結果、多くの成果を得るとともに出土遺物は膨大な量にのぼっています。このように長年の発掘調査により蓄積されてきた貴重な資料は、言うまでもなく国民の共有財産であり、広く活用されるべきものでなければなりません。こうした観点から、大阪府では様々な機会をとらえて、調査成果の公表や活用に努めて参りました。

調査事務所では、先人が残した文化財という遺産を活用できるように、発掘の調査成果を速やかに報告書として情報公開し、積極的に普及広報活動を通して社会に還元して行きたいと考えています。そのため、これまで以上に文化財の保存と活用に努めて参りますので、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成 22 年 11 月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　野口 雅昭

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第 14 冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成 21 年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。

3．埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は表３・４の調査番号に一致する。
遺跡名（平成 21 年度調査番号）
（１）所在地
（２）調査の原因となった事業
（３）調査担当者

4．各項の執筆分担は、次のとおりである。

・「平成 21 年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第二グループ
・「調査概要報告」	調査第一・二グループ
・「資料紹介」	調査第一・二グループ
・「活動報告」	調査第一グループ
・「平成 21 年度普及啓発・広報事業及び資料」	調査管理グループ
・「平成 21 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
・「平成 21 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
・「平成 21 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グリープ

5．本書の編集は、調査管理グループが行った。

6．本書は 500 部作成し、一部あたりの単価は 197 円である。

目　　次

はじめに
例　　言
目　　次
挿図目次
表 目 次
グラフ目次
平成 21 年度における埋蔵文化財調査の概況 …… 1
【主要発掘調査の概要】…… 5
　蔀屋北遺跡　（０９００１）…… 6
　大和川今池遺跡　（０９００２）…… 7
　高向神社南遺跡　（０９００３）…… 8
　板原遺跡　（０９００４）…… 9
　若宮遺跡　（０９００５）……10
　ミヤケ北遺跡　（０９００８）……11
　倉治遺跡　（０９０１０）……12
　池内遺跡　（０９０１３）……13
　甲田南遺跡　（０９０１４）……14
　和泉寺跡　（０９０１７）……15
　安松田遺跡　（０９０１８）……16
　国府遺跡（唐櫃山古墳）（０９０２２）……17
　奥田井遺跡　（０９０２３）……18
　田尻遺跡　（０９０２６）……19
　大町遺跡　（０９０２９）……20
　芹生谷遺跡　（０９０３０）……21
　柳原遺跡　（０９０３１）……22
　中垣内遺跡　（０９０３２）……23
　待兼山遺跡　（０９０３８）……24
　ミクリ遺跡　（０９０４０）……25
　中野北遺跡　（０９０４２）……26
　小阪合遺跡　（０９０４７）……27
【資料紹介】……28
　和泉寺跡出土文字瓦 ……28
　「田中家（鴻池別家）文書」の概要調査 ……30
【活動報告】……33
　普及・公開事業 ― 府立博物館事業との連携 ― ……33
平成 21 年度普及啓発・広報事業及び資料 ……35
平成 21 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧 ……37
平成 21 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧 ……38
平成 21 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図 ……47

挿図目次

図 1　主要調査位置図…… 5
図 2　竪坑第４面検出状況…… 6
図 3　八丁堤検出状況…… 6
図 4　２区全景…… 7
図 5　井戸１－５部材…… 7
図 6　井戸２－１部材…… 7
図 7　調査位置図…… 8
図 8　遺構全体図…… 8
図 9　木炭窯…… 8
図 10　第１調査区３面全景…… 9
図 11　第１調査区２面検出羽釜井戸…… 9
図 12　調査区位置図…… 9
図 13　調査地位置図……10
図 14　第２面全景……10
図 15　第２面平面全体図……10
図 16　調査地位置図……11
図 17　調査風景（北から）……11
図 18　ピット集中部（北西から）……11
図 19　北西端落込み（南西から）……11
図 20　谷部調査風景……12
図 21　竪穴住居を見学する小学生……12
図 22　池内遺跡試掘調査地位置図……13
図 23　調査地位置図……14
図 24　弥生土器棺（南から）……14
図 25　中世墓（西から）……14
図 26　調査地位置図……15
図 27　０９－０２区第３面全景……15
図 28　調査地位置図……16
図 29　174 土坑平瓦出土状況……16
図 30　調査区全景（南西から）……16
図 31　調査区位置図……17
図 32　調査区全景（西から）……17
図 33　調査区位置図……18
図 34　１区全景（西から）……18
図 35　２区全景（西から）……18
図 36　調査位置図……19
図 37　溝 SD23・24……19
図 38　耕作痕・土坑……19
図 39　001・002 河道全景……20
図 40　土器出土状況……20
図 41　カメ・高杯出土状況……20
図 42　芹生谷遺跡調査区位置図……21
図 43　建物柱穴検出状況（西から）……21
図 44　遺構検出状況（南から）……21
図 45　トレンチ配置図……22
図 46　Ｂトレンチ（北から）……22
図 47　トレンチ略測図……22
図 48　調査地位置図……23
図 49　調査地航空写真（北西上方から）……23
図 50　Ｂ区東側土層断面……23
図 51　調査地全景……24
図 52　中山池堤体断面状況……24
図 53　調査地周辺航空写真（南上方から）……25
図 54　調査地位置図……26
図 55　堤１・２・３（北から）……26
図 56　堤４（西から）……26
図 57　堤４断面（北から）……26
図 58　調査区位置図……27
図 59　古墳時代前期～中期遺構面全景（南から）……27
図 60　中世面南北溝（東から）……27
図 61　09-01 区第２面全景……28
図 62　文字瓦 1……29
図 63　文字瓦 2……29
図 64　文字瓦 3……29
図 65　文字瓦 4……29
図 66　文字瓦 5……29
図 67　「宗門御改帳」上渋谷村 2 冊……31
図 68　「宗門御改帳」一向宗 檀那寺 教善寺……31
図 69　「宗門御改帳」禅宗 檀那寺 自性院……31
図 70　「鴻池銀行」理事 蘆田安三郎 辞令……31
図 71　「合名会社鴻池銀行」小口当座預金通帳……32
図 72　「鴻池善右衛門あて奉公一件」文書……32
図 73　「見舞到来もの飛加えゑ」「鴻池茂四郎」ほか……32
図 74　「普請用小払帳」「鴻池鴻池茂四郎」……32
図 75　狭山池博物館講演会風景……33
図 76　土器作り出前授業風景……33
図 77　安松田遺跡現地公開風景……35
図 78　倉治遺跡現地公開における小学生への説明風景……35
図 79　大町遺跡現地公開風景……35
図 80　府庁別館８階ロビー展示状況……36
図 81　東大阪収蔵庫外観……37
図 82　泉北収蔵庫収納状況……37

表　目　次

表 1　原因別調査種別表……1
表 2　地域別調査面積・件数一覧表……1
表 3　平成 21 年度調査箇所一覧表（１）……3
表 4　平成 21 年度調査箇所一覧表（２）……4
表 5　平成 21 年度府立博物館連携事業一覧……34

グラフ目次

グラフ 1　原因別調査面積の推移…… 2
グラフ 2　地域別調査面積の推移…… 2
グラフ 3　原因別調査件数の推移……2
グラフ 4　地域別調査件数の推移……2

平成 21 年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数および面積

平成21年度における調査件数は、発掘調査22件、試掘調査 14 件、確認調査 11 件、立会調査 17 件、計 64 件、調査面積は合計 17,982㎡である。

調査件数の推移を見ると、平成 18 年度までは年間およそ 70 件程度で推移してきたが、平成 19 年度に 60 件、平成 20 年度には 45 件に減少した。平成 21 年度には 64 件に復したが、それは立会調査の件数が多かったためである。

調査面積は平成 18 年度以降、一貫して減少しており、平成 21 年度は平成 17 年度の約 3 割（7 割減）しかない。公共事業の見直しや行財政改革が続いており、この調査件数・調査面積の減少傾向は今後も続くと予測される。

一方、過年度調査分の遺物整理・報告書刊行は増加している。平成 21 年度は、蔀屋北遺跡（下水道）、高木遺跡・堀遺跡・衣ヶ谷古墳（道路）、山城廃寺（農地）、招提中町遺跡・福井遺跡・大町遺跡・寺田遺跡（府営住宅）などの遺物整理事業を行い、報告書･概要は、「堀遺跡」、「大町遺跡」、「蔀屋北遺跡Ⅰ」など、平成 20 年度遺物整理分も含めて 16 冊を刊行した（巻末刊行物一覧参照）。

また公開・活用に積極的に取り組んだ。調査件数の減少にもかかわらず、倉治遺跡、和泉寺跡（2 回）、安松田遺跡、大町遺跡、衣ヶ谷古墳など、6 回の現地説明会・現地公開を行った。現地公開の場合、府 HP 上に掲載することで府民への広報としており、マスコミへの報道資料提供に比べて、準備期間を短縮できるようになっている。

主要な調査成果

平成 21 年度に行った調査の主要な成果について概観しておこう。

旧石器時代

新たな調査成果はなかった。

縄文時代

太子町**ミヤケ北遺跡**（09008）は平成 20 年度の試掘調査で新たに発見された遺跡である。平成 21 年度の調査では縄文時代晩期中葉（篠原式）の居住域にあたった。検出遺構は、49 基からなるピット群とそのほぼ中央に位置する土坑である。平地住居（あるいは削平された竪穴住居）の可能性がある。またこれとは別に、ピットを伴う浅い落ち込みの一部を検出しており、埋土からは少量の突帯文土器が出土している。これも住居の可能性がある。

弥生時代

富田林市**甲田南遺跡**（09014）では弥生時代中期後半の土器棺、ピット群、土坑などを検出し、磨製石剣も出土した。甲田南遺跡では他に古代の竪穴住居、中世墓も検出している（後述）。

和泉市**和泉寺跡**（09017）では下層遺構面の自然流路から弥生時代後期～古墳時代前期の土器が多く出土した。和泉寺跡では古代の廃棄土坑も検出している（後述）。岸和田市**大町遺跡**（09029）では弥生時代中期後半～古墳時代前期前葉の自然流路を複数検出しており、庄内式期の土器がまとまって出土している。

古墳時代

交野市**倉治遺跡**（09010）では、竈と壁溝を伴う

表 1　原因別調査種別表

＊面積は㎡である

	12 年度		13 年度		14 年度		15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度	
	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数
住　宅	19,623	14	11,340	11	7,905	10	12,522	19	13,817	17	15,453	7	14,730	15	11,169	10	488	8	1,799	9
農　林	13,817	18	15,250	14	8,147	12	12,441	7	10,308	6	9,068	9	1,970	4	1,564	5	672	3	587	4
道　路	3,504	14	1,518	18	4,256	20	11,008	21	11,423	18	12,712	33	7,468	22	11,422	24	10,468	17	5,629	21
下　水	5,066	9	22,698	14	16,846	12	13,017	6	13,150	7	8,174	9	2,181	5	180	3	7,787	5	6,417	8
河　川	530	3	1,389	6	146	4	1,598	4	5,204	5	9,063	2	3,883	2	204	2	10	2	0	1
学　校	425	3	526	4	8	1	1,054	7	144	9	809	7	24	8	12	1	140	1	361	5
その他	9,220	9	2,000	6	1,199	6	745	6	246	10	2,793	12	1,269	12	2,788	15	298	9	3,189	16
合　計	52,185	70	54,721	73	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64

表 2　地域別調査面積・件数一覧表

＊面積は㎡である

	12 年度		13 年度		14 年度		15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度	
	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数
大阪市	0	0	1,880	2	1,304	3	258	5	238	6	245	2	120	4	0	0	96	2	30	2
泉　南	9,810	12	5,723	17	450	5	8,971	8	4,782	11	1,417	13	4,794	8	4,069	8	438	5	2,100	6
泉　北	6,240	8	834	6	5,043	10	3,897	9	7,861	16	7,357	13	465	7	6,519	8	6,857	10	3,822	7
南河内	11,450	19	19,747	16	9,381	18	14,250	14	8,388	12	16,433	15	4,942	10	6,534	9	9,660	11	7,945	10
中河内	8,768	12	3,385	15	949	14	3,319	13	887	9	50	11	1,225	16	2,104	11	322	3	190	14
北河内	4,978	10	16,263	4	17,664	4	15,733	10	18,064	9	20,923	15	13,252	10	4,940	10	1,995	9	3,619	13
三　島	10,629	8	6,572	9	2,175	8	5,957	11	14,060	8	11,287	8	6,677	12	2,969	10	495	5	89	6
豊　能	310	1	317	5	1,541	3	0	0	12	1	360	2	50	1	204	4	0	0	187	6
合　計	52,185	70	54,721	74	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64

古墳時代中期の竪穴住居２棟をはじめ、遺物を多く包含する土坑や谷を検出した。軟質韓式土器平底鉢なども出土しており、渡来系集落の可能性が考えられる。また倉治遺跡では中世の掘立柱建物も検出している。四條畷市**蔀屋北遺跡**（09001）では古墳時代の小区画水田に伴う畦畔が検出されている。また八丁堤は坪境里道とも一致し、平安時代後期以降、同じ位置で徐々に規模を広げながら存続してきたことが明らかになった。

八尾市**小阪合遺跡**（09047）では、狭い調査範囲にもかかわらず、古墳時代前期の溝を確認した。また埴輪片がかなり出土しており、付近に古墳の存在を想定できる。

藤井寺市**国府遺跡**（09022）では唐櫃山古墳後円部墳丘および周溝を確認した。周溝からは転落した葺石や円筒埴輪が出土した。周溝埋土には瓦器や近世陶磁器も入っており、周溝の最終的な埋没は 17 世紀以降と考えられる。

古代

富田林市**甲田南遺跡**では６～７世紀の方形竪穴住居２棟を検出した。２棟は重複しており、先行する竪穴住居には造り付け竈が認められた。河内長野市**高向神社南遺跡**（09003）では古代と推測される炭窯が検出された。隣接する高向神社遺跡では製鉄関連遺構が検出されており、両者の関連が注目される。河南町**芹生谷遺跡**（09030）では平安時代～中世の集落域と耕作地の広がりを確認した。またふいご羽口片や鉄滓が出土しており、鍛冶関連遺構が存在する可能性がある。

和泉市和泉寺跡では、寺院と直接結びつく遺構は認められなかったが、上層遺構面の奈良時代廃棄土坑から「弥縣主廣足作」、「坂合部連前」など５点の文字瓦が出土した。和泉寺建立にかかわった古代氏族を示す初めての資料であり、たいへん興味深い（資料紹介参照）。

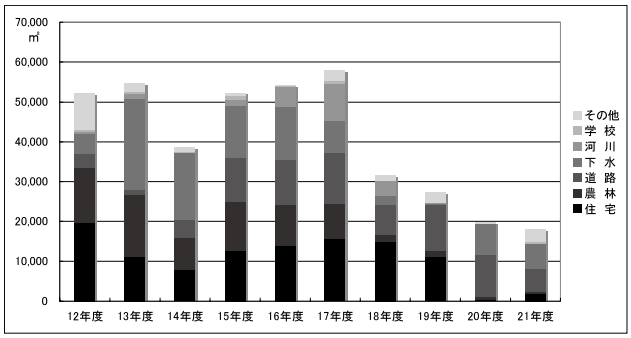
中世

高槻市**ミクリ遺跡**（09040）では耕作地の重なりをあらためて確認した。

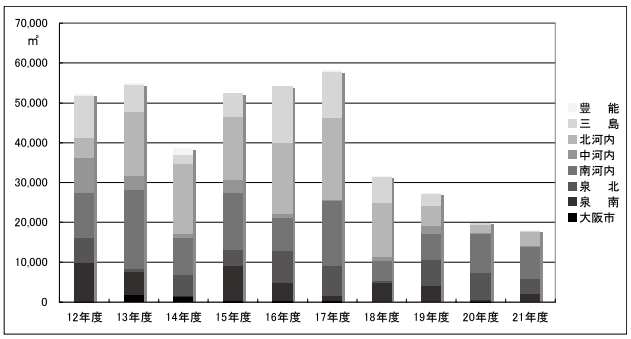
富田林市**甲田南遺跡**では中世墓を検出した。墓坑内に小規模な木棺を納めていたと考えられ、瓦器、土師器、鉄鎌などが出土した。富田林市**中野北遺跡**（09042）では粟ヶ池東堤を調査し、この堤が中世以降に築かれ、４段階の変遷を経て今日の姿になったことを確認した。河内長野市**奥田井遺跡**（09023）では中世以降の耕作地を検出している。耕作地であるにもかかわらず、14 世紀頃の中国龍泉窯系青磁が出土しているのは注目される。

和泉市**板原遺跡**（09004）では 2007 年度調査で鎌倉時代～室町時代の屋敷地を検出しているが、平成 21 年度の調査地も屋敷地の一画と考えられ、土師質羽釜積井戸、ピット、溝などを検出している。板原遺跡では縄文時代晩期頃の遺構面も検出しているが、遺構遺物は希薄であった。泉佐野市**安松田遺跡**（09018）では 12 世紀末頃の大型土坑が数多く検出された。瓦生産用の粘土採掘土坑と考えられ、土坑埋土からは破損品や焼成不良の瓦が出土している。また焼土塊、灰なども出土しており、付近に瓦窯があった可能性が考えられる。田尻町**田尻遺跡**

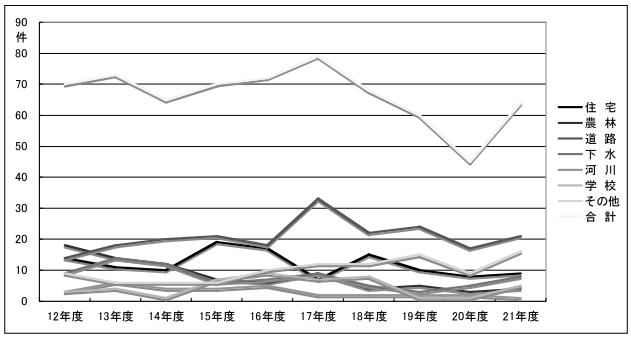
グラフ１　原因別調査面積の推移



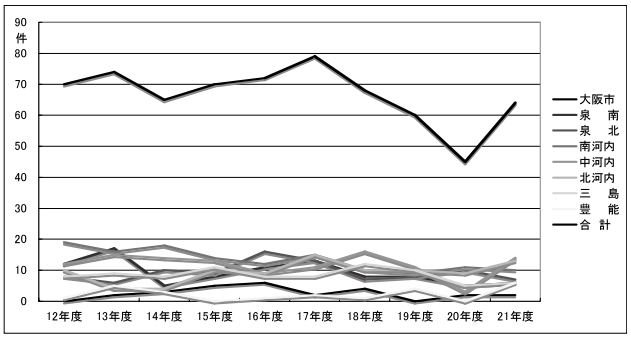
グラフ２　地域別調査面積の推移



グラフ３　原因別調査件数の推移



グラフ４　地域別調査件数の推移



（09026）では中世以降の溝、落込み、耕作痕を検出した。土坑は出土遺物がなく時期不明だが、中世以前に遡る可能性が考えられる。

近世以降

松原市**大和川今池遺跡**（09002）では、古墳時代後期の溝・土坑、平安～鎌倉時代の建物・ピット群・溝などのほか、池の東に張り出す副池の堤を調査し、近世築堤の実態を明らかにできた。泉佐野市**若宮遺跡**（09005）は近世佐野町場の周辺地だが、調査地は近世以降耕作地が確認された。（大野　薫）

表３　平成 21 年度調査箇所一覧表（1）

＊太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺　跡　名	所　在　地	種別	調 査 開 始	調 査 終 了	調査面積	担当者	事 業 課	事　業　名
09001	**蔀屋北遺跡**	**四條畷市砂・蔀屋**	**発掘**	**平成 21 年 4 月 1 日**	**平成 22 年 3 月 31 日**	**280 ㎡**	**横田**	**下水道室 事業課**	**寝屋川北部流域下水道事業 なわて水みらいセンター建設**
09002	**大和川今池遺跡**	**松原市天美北3丁目**	**発掘**	**平成 21 年 4 月 1 日（昨年度から継続）**	**平成 21 年 6 月 10 日**	**5,960 ㎡**	**西川**	**下水道室 事業課**	**大和川下流域下水道事業 今池水未来センター建設**
09003	**高向神社南遺跡**	**河内長野市高向**	**発掘**	**平成 21 年 4 月 13 日**	**平成 21 年 5 月 27 日**	**160 ㎡**	**小山田（島津）**	**農政室 整備課**	**府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」**
09004	**板原遺跡**	**和泉市肥子町**	**発掘**	**平成 21 年 5 月 7 日**	**平成 21 年 9 月 31 日**	**840 ㎡**	**三木 阿部**	**交通道路室 道路整備課**	**都市計画道路和泉中央線整備事業**
09005	**若宮遺跡**	**泉佐野市 1192 番**	**発掘**	**平成 21 年 5 月 11 日**	**平成 21 年 5 月 27 日**	**90 ㎡**	**三木**	**府警本部 施設課**	**泉泉佐野駅前交番新築工事**
09006	尊延寺遺跡	枚方市尊延寺 4 丁目	立会	平成 21 年 5 月 12 日	平成 21 年 5 月 12 日	－	岡本	交通道路室 道路環境課	府道枚方山城線歩道設置工事
09007	高安城跡	八尾市大字服部川 1956 － 2	確認	平成 21 年 6 月 4 日	平成 21 年 6 月 4 日	5 ㎡	岡本	大阪管区気象台	高安山気象レーダー観測所建て替え工事
09008	**ミヤケ北遺跡**	**太子町 491 － 1**	**発掘**	**平成 21 年 6 月 8 日**	**平成 21 年 6 月 30 日**	**40 ㎡**	**山田**	**交通道路室 道路整備課**	**府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線歩道設置工事**
09009	長尾遺跡	枚方市長尾元町 1 丁目	立会	平成 21 年 6 月 15 日	平成 21 年 6 月 15 日	－	岡本	交通道路室 道路環境課	府道杉田口禁野線歩道設置工事
09010	**倉治遺跡**	**交野市倉治1丁目**	**発掘**	**平成 21 年 7 月 7 日**	**平成 22 年 1 月 29 日**	**3,015 ㎡**	**小川**	**府警本部 施設課**	**大阪府枚方第二警察署（仮称）庁舎建設工事**
09011	出屋敷遺跡	枚方市山田池南町	確認	平成 21 年 7 月 17 日	平成 21 年 7 月 17 日	5 ㎡	岡本	公園課	府立山田池公園整備事業
09012	西福井遺跡	茨木市西福井 4 丁目	立会	平成 21 年 7 月 21 日	平成 21 年 7 月 21 日	－	小林	支援教育課	茨木支援学校下水道改修工事
09013	**遺跡外（池内遺跡）**	**松原市天美東 1 丁目**	**試掘**	**平成 21 年 7 月 21 日**	**平成 21 年 8 月 3 日**	**54 ㎡**	**服部**	**交通道路室 道路整備課**	**府道大阪河内長野線建設工事**
09014	**甲田南遺跡**	**富田林市甲田 3 丁目**	**発掘**	**平成 21 年 8 月 17 日**	**平成 21 年 9 月 30 日**	**310 ㎡**	**山田**	**交通道路室 道路整備課**	**一般国道（旧）170 号歩道設置工事**
09015	山之内遺跡	大阪市住吉区 1 丁目	試掘	平成 21 年 8 月 6 日	平成 21 年 8 月 7 日	20 ㎡	阿部	支援教育課	視覚支援学校改築工事
09016	遺跡外	堺市北区百舌梅町 3 丁	試掘	平成 21 年 8 月 18 日	平成 21 年 8 月 18 日	19 ㎡	西口	住宅経営室 住宅管理課	府営百舌鳥梅町住宅耐震補強工事
09017	**和泉寺跡**	**和泉市府中町 4 丁目**	**発掘**	**平成 21 年 9 月 1 日**	**平成 22 年 3 月 5 日**	**1,680 ㎡**	**土屋**	**交通道路室 道路整備課**	**都市計画道路大阪岸和田南海線建設事業**
09018	**安松田遺跡**	**泉佐野市東羽倉崎町**	**発掘**	**平成 21 年 9 月 7 日**	**平成 21 年 11 月 30 日**	**915 ㎡**	**服部**	**住宅経営室 住宅整備課**	**府営泉佐野東羽倉崎住宅建て替え工事**
09019	遺跡外	吹田市南清和園町	試掘	平成 21 年 8 月 27 日	平成 21 年 8 月 27 日	16 ㎡	山上	鉄道・運輸機構	吹田信号場基盤整備工事
09020	廻し塚古墳隣接地	寝屋川市宇谷町	立会	平成 21 年 9 月 3 日	平成 21 年 9 月 3 日	－	岡本	交通道路室 道路整備課	主要地方道枚方交野寝屋川線交差点改良工事
09021	寺田遺跡	和泉市寺田町	立会	平成 21 年 9 月 7 日	平成 21 年 9 月 8 日	－	土屋	住宅経営室 住宅整備課	府営和泉寺田住宅建て替え工事
09022	**国府遺跡**	**藤井寺市国府 1 丁目**	**発掘**	**平成 21 年 9 月 10 日**	**平成 21 年 10 月 30 日**	**100 ㎡**	**西川**	**交通道路室 道路整備課**	**主要地方道堺大和高田線交差点改良工事**
09023	**奥田井遺跡**	**河内長野市鳩原**	**発掘**	**平成 21 年 11 月 16 日**	**平成 22 年 1 月 22 日**	**400 ㎡**	**西川**	**農政室 整備課**	**府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」**
09024	恩智遺跡	八尾市恩智北	立会	平成 21 年 9 月 24 日	平成 21 年 10 月 20 日	－	松岡	交通道路室 道路環境課	交通安全施設等整備事業 一般国道（旧）170 号
09025	出屋敷遺跡	枚方市山田池南町	確認	平成 21 年 9 月 28 日	平成 21 年 9 月 21 日	5 ㎡	岡本	公園課	府営山田池公園実りの里整備事業
09026	**田尻遺跡**	**田尻町吉見**	**発掘**	**平成 21 年 8 月 3 日**	**平成 22 年 3 月 15 日**	**250 ㎡**	**三木（中野）**	**交通道路室 道路環境課**	**一般府道新家田尻線歩道設置工事**
09027	遺跡外	堺市美原区多治井	試掘	平成 21 年 10 月 23 日	平成 21 年 10 月 23 日	27 ㎡	小山田	農政室 整備課	府営ため池防災事業笠田池地区
09028	矢作遺跡	八尾市高美町 3 丁目	立会	平成 21 年 11 月 10 日	平成 21 年 11 月 10 日	－	岡本	大阪国税局	八尾税務署駐車場増築工事
09029	**大町遺跡**	**岸和田市大町 4 丁目**	**発掘**	**平成 21 年 11 月 5 日**	**平成 22 年 2 月 2 日**	**800 ㎡**	**三木**	**住宅経営室 住宅整備課**	**府営岸和田大町住宅建て替え工事**
09030	**芹生谷遺跡**	**河南町大字芹生谷**	**発掘**	**平成 21 年 12 月 1 日**	**平成 22 年 2 月 15 日**	**740 ㎡**	**杉本**	**交通道路室 道路整備課**	**一般国道 309 号河南赤阪バイパス整備事業**

表 4　平成 21 年度調査箇所一覧表（2）

＊太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺　跡　名	所　在　地	種別	調 査 開 始	調 査 終 了	調査面積	担当者	事 業 課	事　業　名
09031	**遺跡外（柳原遺跡）**	**池田市城南 3 丁目**	**試掘**	**平成 21 年 11 月 16 日**	**平成 21 年 11 月 20 日**	**8 ㎡**	**岡本**	**住宅経営室 住宅整備課**	**府営池田城南住宅建て替え工事**
09032	**中垣内遺跡**	**大東市寺川 1 丁目**	**発掘**	**平成 21 年 11 月 24 日**	**平成 21 年 12 月 25 日**	**300 ㎡**	**宮崎**	**教育委員会 施設課**	**府立野崎高校下水管改修工事**
09033	村野南遺跡	枚方市村野本町 1 丁目	立会	平成 21 年 11 月 27 日	平成 21 年 11 月 27 日	―	岡本	府警本部 施設課	村野交番建て替え工事
09034	竹渕遺跡	八尾市竹渕東 1 丁目	確認	平成 21 年 12 月 4 日	平成 21 年 12 月 4 日	8 ㎡	岡本	府警本部 施設課	亀井交番建て替え工事
09035	逢坂遺跡	四條畷市逢坂	立会	平成 21 年 12 月 7 日	平成 21 年 12 月 7 日	―	岡本	ダム砂防課	讃良川改修工事
09036	柱本南遺跡	高槻市柱本南町	確認	平成 21 年 11 月 16 日	平成 21 年 11 月 30 日	36 ㎡	小林	支援教育課	鳥飼（仮称）支援学校新設
09037	穂積遺跡	豊中市服部西町 4 丁目	確認	平成 21 年 12 月 14 日	平成 21 年 12 月 14 日	5 ㎡	岡本	府警本部 施設課	服部西交番建て替え工事
09038	**待兼山遺跡**	**池田市石橋 3 丁目**	**立会**	**平成 21 年 9 月 1 日**	**平成 21 年 9 月 8 日**	**―**	**小林**	**農政室 整備課**	**オアシス構想池推進事業「中山池地区」**
09039	西福井遺跡	茨木市西福井 3 丁目	確認	平成 21 年 11 月 18 日	平成 21 年 11 月 18 日	5 ㎡	小林	教育委員会 施設課	府立福井高校下水管改修工事
09040	**ミクリ遺跡**	**高槻市西町**	**発掘**	**平成 21 年 12 月 14 日**	**平成 21 年 12 月 28 日**	**24 ㎡**	**小林**	**交通道路室 道路整備課**	**都市計画道路富田奈佐原線整備事業**
09041	ミヤケ北遺跡	太子町 491-1	試掘	平成 21 年 7 月 1 日 平成 21 年 11 月 19 日	平成 21 年 7 月 1 日 平成 21 年 11 月 19 日	1 ㎡	山田	交通道路室 道路環境課	柏原駒ヶ谷千早赤阪線歩道設置工事
09042	**中野北遺跡**	**富田林市中野町 3 丁目**	**発掘**	**平成 22 年 1 月 18 日**	**平成 22 年 2 月 25 日**	**180 ㎡**	**山田**	**交通道路室 道路整備課**	**主要地方道美原太子線歩道整備工事**
09043	大里遺跡	能勢町大里	確認	平成 21 年 12 月 24 日	平成 21 年 12 月 24 日	10 ㎡	岡本	交通道路室 道路環境課	主要地方道園部能勢線交通安全整備事業
09044	久宝寺遺跡	八尾市竜華 2 丁目	発掘	平成 22 年 1 月 5 日	平成 22 年 3 月 31 日	50 ㎡	松岡	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業
09045	平野遺跡	柏原市平野	立会	平成 22 年 1 月 18 日	平成 22 年 1 月 18 日	―	岡本	交通道路室 道路環境課	一般国道（旧）170 号歩道設置工事
09046	佐堂遺跡	東大阪市佐堂 3・4 丁目	立会	平成 22 年 2 月 19 日	平成 22 年 2 月 19 日	―	岡本	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター送泥管築造工事
09047	**小阪合遺跡**	**八尾市南小阪合町 1 丁目**	**発掘**	**平成 22 年 2 月 8 日**	**平成 22 年 2 月 17 日**	**50 ㎡**	**岡本**	**下水道室 事業課**	**竜華水みらいセンター送水管小阪合吐口築造工事**
09048	若江北遺跡	東大阪市若江西新町 3 丁目	立会	平成 22 年 2 月 5 日	平成 22 年 2 月 5 日	―	岡本	下水道室 事業課	寝屋川流域下水道中央南増補幹線外管理棟建築工事
09049	和泉寺跡	和泉市府中町 4 丁目	発掘	平成 22 年 2 月 23 日	平成 23 年度に継続	1,240 ㎡	土屋	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線建設事業
09050	遺跡外	泉佐野市上町 1 丁目	試掘	平成 22 年 1 月 20 日	平成 22 年 1 月 20 日	16 ㎡	三木	近畿地方整備局	佐野簡易裁判所建て替え工事
09051	遺跡外	岸和田市土生町 5 丁目	試掘	平成 22 年 2 月 22 日	平成 22 年 2 月 22 日	29 ㎡	三木	住宅経営室 住宅整備課	府営岸和田土生住宅第 2 期耐震改修工事
09052	呉竹遺跡	東大阪市下小阪 4 丁目	立会	平成 22 年 2 月 22 日	平成 22 年 2 月 24 日	―	岩瀬	府警本部 施設課	大阪府布施警察署庁舎新築工事に伴う汚水貯留槽埋設工事
09053	小阪合遺跡	八尾市南小阪合町 1 丁目	確認	平成 22 年 3 月 2 日	平成 22 年 3 月 2 日	2 ㎡	岡本	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター送水管小阪合吐口築造工事
09054	讃良郡条里遺跡	寝屋川市高宮栄町	確認	平成 22 年 3 月 1 日	平成 22 年 3 月 1 日	4 ㎡	岡本	税政課	大阪府大阪自動車税事務所寝屋川分室撤去工事
09055	高安城跡	八尾市大字服部川 1956 － 2	立会	平成 22 年 3 月 2 日	平成 22 年 3 月 2 日	―	岡本	大阪管区気象台	高安山気象レーダー旧観測所解体工事
09056	遺跡外	寝屋川市仁和寺本町 6 丁目	試掘	平成 22 年 3 月 16 日	平成 22 年 3 月 16 日	10 ㎡	岡本	住宅経営室 住宅管理課	府営寝屋川仁和寺住宅エレベータ設置工事
09057	中宮ドンパ遺跡	枚方市宮之阪 3 丁目	立会	平成 22 年 3 月 9 日	平成 22 年 3 月 9 日	―	岡本	交通道路室 道路環境課	一般府道枚方茨木線歩道設置工事
09058	久宝寺遺跡	八尾市竜華 2 丁目	発掘	平成 22 年 3 月 14 日	平成 22 年 3 月 31 日	75 ㎡	松岡	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備工事
09059	遺跡外	大阪市旭区太子橋 3 丁目	試掘	平成 22 年 3 月 16 日	平成 22 年 3 月 17 日	10 ㎡	小林	住宅経営室 住宅整備課	府営橋寺住宅建て替え工事
09060	遺跡外	島本町江川 1 丁目	試掘	平成 22 年 3 月 16 日	平成 22 年 3 月 16 日	8 ㎡	岡本	住宅経営室 住宅管理課	府営島本江川住宅エレベータ設置工事
09061	矢作遺跡	八尾市高美町 3 丁目	立会	平成 22 年 3 月 19 日	平成 22 年 3 月 19 日	―	岡本	大阪国税局	八尾税務署駐輪場増築工事
09062	止々呂美城隣接地	箕面市下止々呂美	試掘	平成 22 年 1 月 18 日	平成 22 年 3 月 31 日	144 ㎡	山上	西日本高速道路（株）	高速自動車道国道近畿自動車道名古屋神戸線建設事業
09063	服部西遺跡	豊中市利倉東 2 丁目	確認	平成 21 年 12 月 8 日	平成 21 年 12 月 8 日	20 ㎡	小林	空港対策室	空港周辺緑地事業
09064	遺跡外	堺市堺区鉄砲町・七道西町	試掘	平成 21 年 6 月 23 日	平成 21 年 7 月 1 日	16 ㎡	山上	阪神高速道路（株）	大阪府道高速大和川線建設事業

【主要発掘調査概要報告】

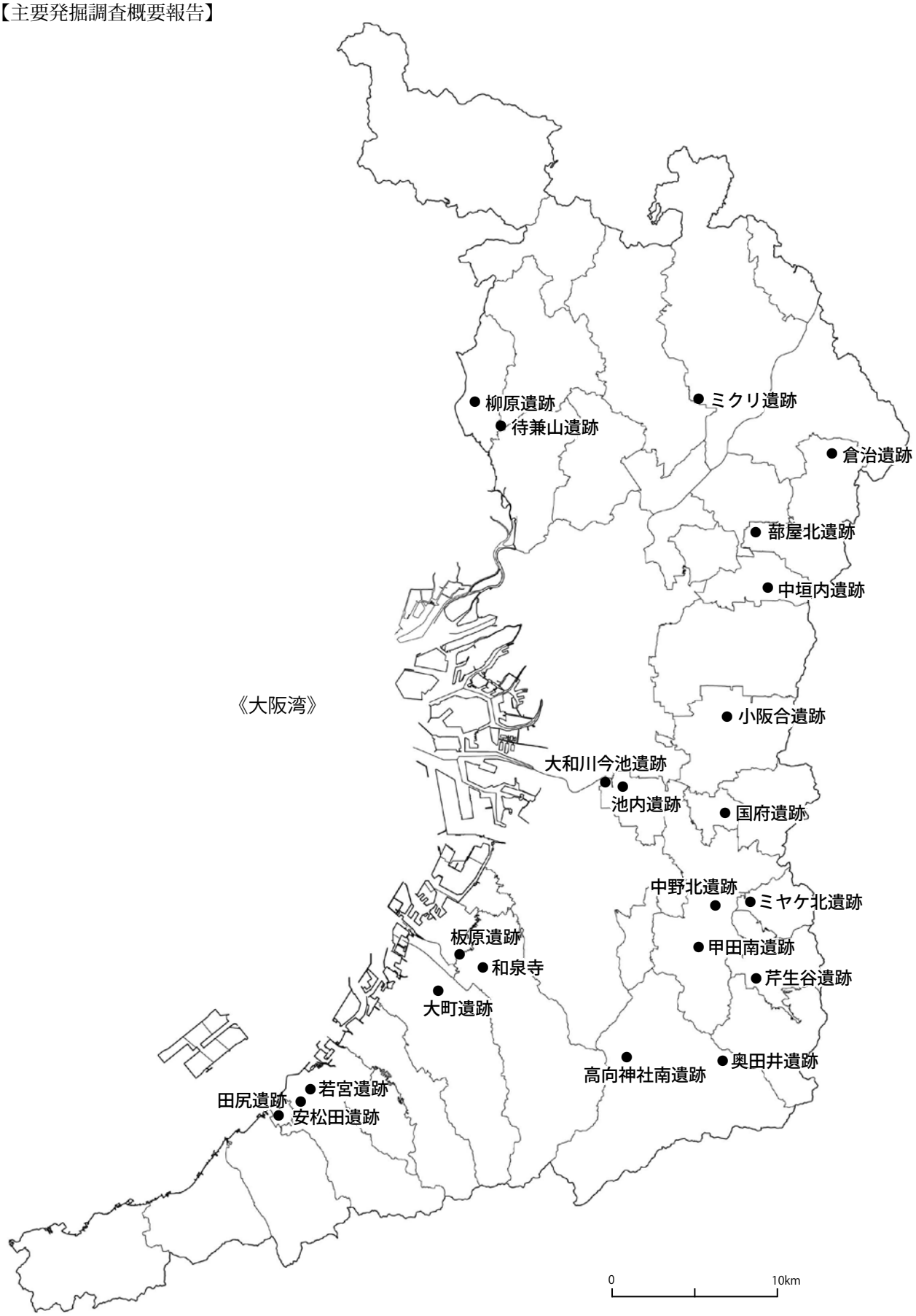


図１　主要調査位置図

蔀屋北遺跡（０９０００１）

（１）四條畷市砂・蔀屋
（２）寝屋川流域下水道整備「なわて水みらいセンター」
（３）横田　明

はじめに

平成 13 年度より開始された蔀屋北遺跡の発掘調査は、平成 20 年度以降、施設間を結ぶ管路等の調査が行われた。21 年度は用地南西隅の発進竪坑、既調査の E 地区と岡部川とを結ぶ放流渠部分の調査が行われた。

発進竪坑調査区

用地の南西部であり、遺構面を計５面検出した。T.P. ＋ 1.4m 以下（９層以下）は氾濫性堆積物ばかりであり、遺物は出土していない。９層上面（第５面）を基盤に南北溝が１本検出された。この溝は幅約１m、深さ 0.2m で、溝内部には暗色系統の粘土がブロック状に堆積している。ここから５世紀後半代の遺物が出土しており、この時期には地盤が安定し、周辺の乾燥化が進んだものと思われる。

第９層の上に８層オリーブ黒色粘土層が堆積し、溝をも被覆している。この８層も撹拌され、ブロック状に土が入れられた痕跡があり、５世紀後半代の遺物を含んでいる。また８層上面（第４面）では、わずかに南北方向の畦畔らしい痕跡が発見された。上幅 1.5 ～ 2.5m、下幅 2.7 ～ 3.7m、高さは約 0.1m である。後世の削平により削られたものと思われる。畦畔両側にはやや白みがかった黒色粘土が堆積していた。古墳時代の小区画水田に伴う畦畔が形成されていた可能性がある。第８層上面は約 T.P. ＋ 1.6 m でレベルは水平である。第８層上面を第４面とした。これよりも上は中世以降の堆積で、耕作層と思われる堆積層を３枚発見した。

放流渠調査区

この調査区は先年既調査の E 調査区地区から岡部川にのびる放流渠の設置部分である。この調査区を横断するように旧の八丁堤が通過しており、この調査区の大半は八丁堤で占められる。

八丁堤 放流渠調査区で主体となる遺構である。『四條畷市史』によれば、砂・岡山付近から寝屋川の舟運までをつないだ道が八丁堤で、近年まで残っていた。調査地を東西方向に横断し、調査地西半部で南西方向に向かい、岡部川を超えて、寝屋川市の堀溝周辺に至るものである。過去の調査では、B 調査区から調査地を東西方向に横断するように確認されている。堤は砂やシルトを盛り上げて形成され、杭を打ち込んで補強している。坪境の里道と推定され、平安時代後期以降、同じ位置で徐々に規模を広げながら存在したようである。

この調査区で検出された部分は南西に屈曲し、岡部川へと向う部分である。堤の北端は粘土で被覆し杭を打って補強されているが、堤の中身はやはり砂やシルトばかりであった。堤道の盛砂は調査区内で確認できる一番新しい段階で、厚さ約 1.5m、幅約 20m になったものと推定される。

堤構成層の中央部には、堤の基底部にあたる７層の上に盛り上げるかのように、東西方向に粘土が帯状に堆積している。この粘土塊部分は幅 4.5m、高さ 0.8m であり、この粘土塊を中心にしながら、北へ南へと砂やシルトが補充され、堤が広げられている。出土遺物は僅少で、摩滅した細片ばかりである。また部分的な崩壊などにより何度も補充されている可能性があり、年代の推定は困難である。しかしながら、中世後期あたりまで下がる可能性も考慮しなければならない。

図２　竪坑第４面検出状況

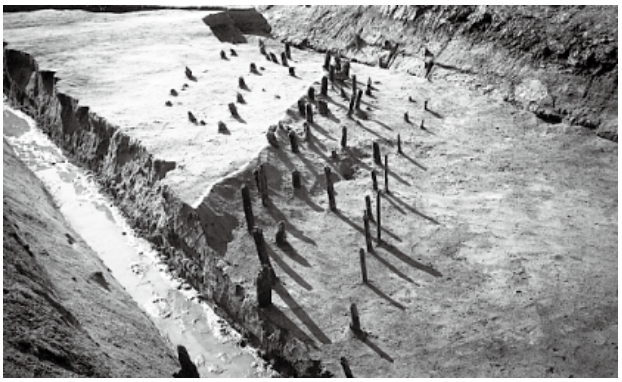


図３　八丁堤検出状況

大和川今池遺跡（０９０００２）

（１）松原市天美北３丁目地内
（２）大和川下流域下水道整備「今池水みらいセンター」
（３）西川寿勝

はじめに

大和川今池遺跡は北側に記紀に記載がある「依網池」跡が知られ、付近は古代豪族、依網連の本拠地との伝承をもつ。また、孝徳天皇の前期難波宮の中軸真南に位置する道路状遺構が、遺跡中央を南北に貫き、これは『日本書紀』に記される「難波大道」と推定される。「難波大道」はその後の水田条里の基線となり、河内・摂津の国境にも引き継がれる。

遺跡は今池水みらいセンター(旧今池下水処理場)建設などに伴い、これまで 40 次以上の継続的な発掘が行なわれている。今回の現地調査は平成 20 年８月に開始し、平成 21 年６月まで実施し、調査概要については前年度刊行の『年報』13 にも記している。

調査成果

今回調査区は今池をはさんで南北二ヶ所（南側が１区・北側が２区）に分かれる合計約 6500㎡である。主な遺構に、古墳時代後期の溝・土坑、平安～鎌倉時代の建物・ピット群・溝、江戸時代の井戸・牛馬歩行痕跡などがある。

図４　２区全景

加えて、二つの調査区で今池の東に張り出す副池の北堤・南堤を調査し、近世築堤の実態とその下層溝を明らかにした。

このうち、井戸 1-5・井戸 2-1・井戸 2-2 は構造が共通する木組み井戸で井戸 1-5 の井戸枠からは 17 世紀の肥前磁器碗がみつかった。

まとめ

今回の調査は、水みらいセンター内の調査の東南にあたり、中世の集落域の広がりが確認できた。また、今池堤の下層から発見された井戸 1-5 出土肥前磁器は大和川付け替え（1705 年）以降のものだった。今池副池造営時期の実態を知る上で興味深い。

図５　井戸 1-5 部材

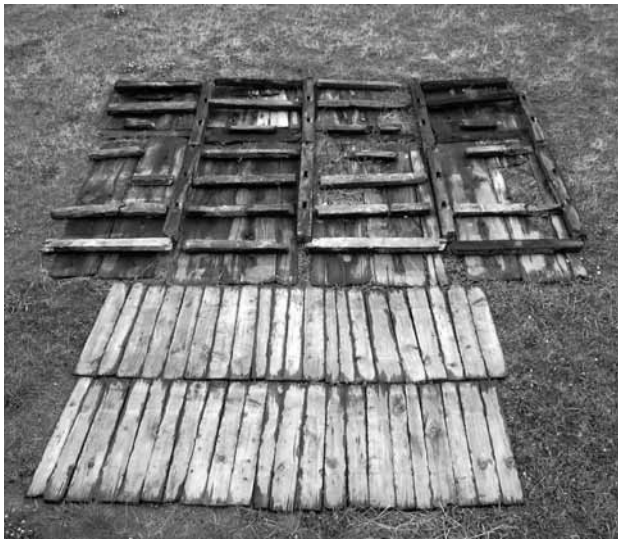


図６　井戸 2-1 部材

高向神社南遺跡（０９００３）

（１）河内長野市高向
（２）府営農村振興整備事業
（３）島津知子（河内長野市教育委員会）・小山田宏一

はじめに

当遺跡は、ほ場整備事業に先立ち、平成 15 年度に実施した高向・高木地区の試掘調査で新規発見された遺跡である。今回の調査は、平成 19 年度に実施した調査区の北西側 160㎡を対象に、平成 21 年 4 月 13 日から 5 月 27 日にかけて現地調査を実施した。

調査成果

重機による表土掘削を行った後、人力による包含層掘り下げ、遺構検出を行った。耕土 (層厚約 0.1 m)、床土 (層厚約 0.05 m)、にぶい黄褐色砂（層厚約 0.2 m）が全体的に堆積している状況が確認できた。遺構面は、石川の氾濫により堆積した砂礫を基本とするが、調査区南側において、明黄褐色シルトの堆積が認められた。なお、今回の調査では、溝 2 条、土坑 1 基、木炭窯 1 基、自然流路 1 条が検出された。

遺物の出土が少なく遺構の時期を特定することが困難であったが、平成 19 年度の調査で検出された溝の続きが確認され、古墳時代の土師器・中世土器が出土したことから、当該遺構は 15 世紀後半頃のものであると考えられる。

また、調査区南端部分で、自然流路に壊されるような形で木炭窯が検出された。窯体の主軸方向がＷ－ 49°－Ｎ、長軸方向が 2 m、短軸方向が 1 m、奥壁側が方形で焚口に向かって窯体の幅が狭くなる形状を呈しており、側面に炭を掻き出すための横口が北東側に 2 箇所並んで設けられている。時期は明らかではないが、窯の形状より、古代の木炭窯であると推測される。

図７　調査位置図

まとめ

今回の調査では、木炭窯が検出されたことが注目される。隣接する高向遺跡では、製鉄遺構が検出されており、両者の関連性がうかがわれる。また、15 世紀後半の遺物を伴う溝が検出されたことから、このころの集落の様相を考える上での知見を得ることができた。

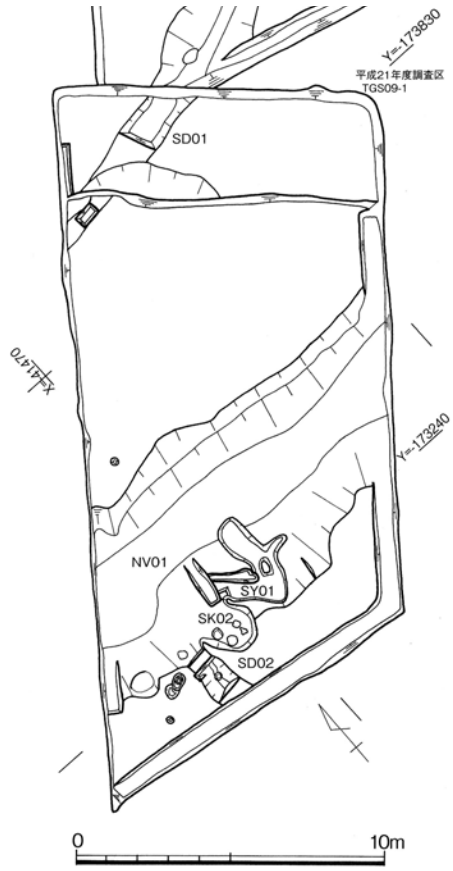


図８　遺構全体図

図９　木炭窯

板原（いたはら）遺跡（０９００４）

（１）和泉市肥子町１・２丁目
（２）都市計画道路和泉中央線（国道４８０号線）整備事業
（３）三木　弘・阿部幸一

はじめに

調査は都市計画道路和泉中央線の国道 26 号線から府道大阪和泉泉南線間の拡幅事業に伴うもので、2002 年から継続して実施している。2009 年度は肥子池公園の北側（第 1 調査区）と国道 26 号線近く（第 2 調査区）で調査を実施した。

第 1 調査区

幅 12 m、全長 51 m、調査面積は約 610㎡である。下水管等多数の埋設物で攪乱されていたが、北西部で肥子池北西堤の盛土を確認した。堤は現道路敷設工事の際に壊されていたが、下堤幅で約 5 m、高さ約 0.5 mが残っていた。

堤土の下で 3 面の遺構を確認した。1 面は中世から近世、2 面は弥生から中世、3 面は縄文時代晩期頃である。1 面は T.P.16.85 m付近の高さで、木組み井戸 2 基と耕作溝を検出した。井戸は道路に沿って約 30 m離れて掘削されており、北西側は直径 4.2 mと東南側は 3.2 m、深さは約 1 mまで掘り下げた。両方の井戸埋土から近世後期頃の陶磁器が出土したので、肥子池が築造されたのは、近世後期以降のこととなる。

第 2 面は中央部が T.P.16.75 m、西端は 16.65 m で、海岸方向に緩やかに傾斜している。この面では、弥生時代のピット、古墳時代の溝、中世の鎌倉～室町時代の羽釜井戸、土坑などを検出した。弥生、古墳時代と中世の遺構は埋土が異なっており、平易に区別できた。弥生時代の遺構はピットや土坑、古墳時代では溝がある。この溝は 07 年調査で確認した溝の続きで、肥子池公園東南端で流路を西から北に曲げて流下している。主な遺構は鎌倉～室町時代のもので、曲物に土師質羽釜を重ねて枠とした井戸やピット、溝を検出した。07 年の調査で、浅い溝で区画された屋敷地を検出している。今回区画溝は確認できなかったが、屋敷地の一画と考えられる。

第 3 面は T.P.16.3 m付近で、縄文時代の土坑 1 基と遺構は確認できなかったが晩期の土器が 1 個体出土した。

第 2 調査区

調査区は幅 8 m、全長 43 m、面積 344㎡である。盛土および旧耕土の直下に近世後半期の耕作面である第 1 面（T.P.16.2 m）があり、その下に 15 世紀（～16 世紀）を中心とする第 2 面（T.P.16.0 m）、10～15 世紀の第 3 面（T.P.15.8 m）と続く。さらに縄文時代の落込が存在した第 4 面、河道が検出された第 5 面がある。第 3 面では屋敷地の区画溝（14 世紀後葉～ 15 世紀前葉）や、雨落ち溝と柵列（13 世紀）など、中世集落に関わる遺構を検出した。

図 10　第 1 調査区 3 面全景

図 11　第 1 調査区 2 面検出羽釜井戸

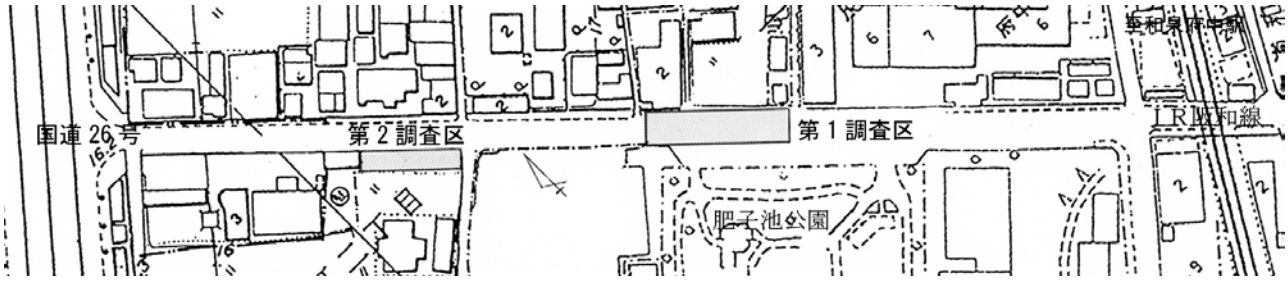


図 12　調査区位置図

若宮遺跡（０９００５）

（１）泉佐野市１１９２番地
（２）泉佐野駅前交番新築工事
（３）三木　弘

はじめに

大阪府警察本部泉佐野警察署泉佐野駅前交番の新築工事に伴って実施した発掘調査である。

若宮遺跡は南海本線泉佐野駅の周辺に広がる中・近世の遺跡であり、今回の調査は遺跡のほぼ南辺に当たる。交番の新築工事であるため調査範囲は狭く、その面積は 90㎡にすぎない。

調査成果

現地表面下に現代の盛土（厚さ 40cm）明治 30 年代の鉄道線路敷設に伴う盛土（厚さ 40cm）があり、17 世紀末～ 18 世紀中葉に形成された約 10cm の厚さの耕作土と床土が続く。その下に、暗灰黄色砂質土が僅かに残る部分もあるが、大半のところでは明黄褐色の基盤層となる。耕作土上面を第 1 面、基盤層上面を第 2 面として発掘調査を行った。

ただ調査地内の過半では攪乱を受けていて、遺構の残りは非常に悪かった。

第 1 面では畦と耕作痕、第 2 面では小溝と小穴を検出した。第 1 面の遺構は 17 世紀末～ 19 世紀中葉、第 2 面の遺構は近世初頭から 17 世紀末（あるいは 18 世紀中葉）に比定できる。なお第 1 面では素掘り井戸も見つかったが、埋め戻しが現代にまで下るため、遺構としては扱わなかった。

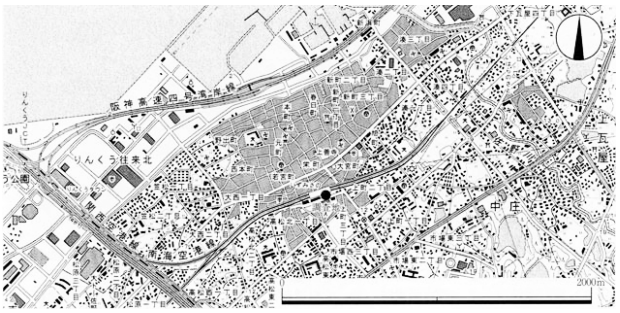


図 13　調査地の位置

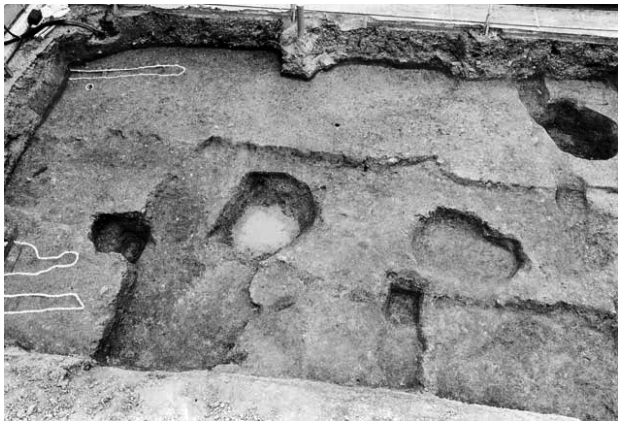


図 14　第 2 面全景

耕作土からは中国製染付磁器（小皿）をはじめ、肥前系磁器、波佐見・平戸系磁器、京焼系陶器、産地不明陶器、さらにチャート製火打石や鉄釘が出土した。磁器、陶器は 17 世紀後半～ 19 世紀初頭に時期比定できるが、18 世紀後半以降のものが多い。また磁器には中碗・小碗・小杯・仏花瓶・徳利など、陶器には擂鉢・土瓶・行平蓋などの器種が認められた。それらは日用品であり、町場において出された廃棄物と考えられるが、ただいずれも小破片であることから、二次的に耕作土へ混入したものであると考えられる。

まとめ

若宮遺跡は、泉州においては近世に繁栄を誇った「佐野町場」およびその周辺域に該当している。「佐野町場」は孝子越街道沿いに形成された近世の宿場町である。食野家や唐金家などの豪商を輩出した、堺に次ぐ泉州有数の富裕な町であった。

「佐野町場」は、13 世紀後半期から散村的な集落として形成が始まり、14 世紀には集村化が進んだ。そして 16 世紀後半～ 17 世紀前半になって宿場町としての様相が整うという歴史過程を辿った。

今回の調査地は街道や宿場からは離れていて、生産域に当たっている。調査地周辺では、既往の調査成果および溜池構築の年代から、17 世紀中葉～末までに水田開発が進められたと考えることができ、今回の発掘調査の成果は、そうした状況を端的に示すものであった。

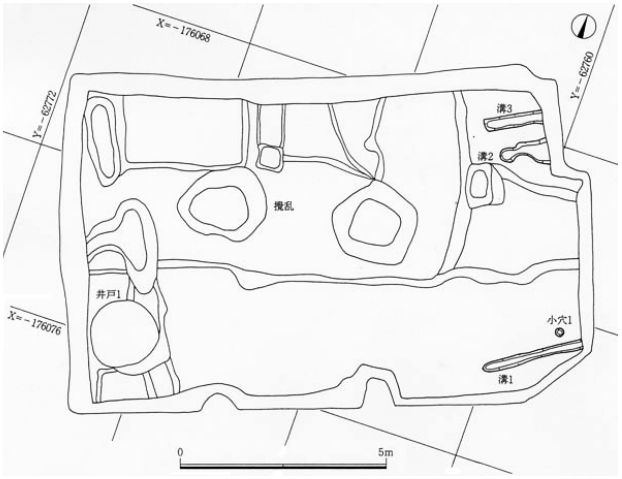


図 15　第 2 面平面全体図

ミヤケ北遺跡（０９００８）

（１）南河内郡太子町太子４９２－２他
（２）主要地方道柏原駒ヶ谷千早赤阪線交差点改良工事
（３）山田隆一

はじめに

ミヤケ北遺跡は、平成20年度に実施した試掘調査で確認された、新規発見の遺跡である。調査地は「太子南」交差点の南東隅であり、調査区の平面形は北西方向に突出部のある不定形な台形で、突出部は長さ約4.0 m、幅約1.1 m、台形部は幅約6.0 m、電柱のために調査しえなかった北西隅を除外した調査総面積は約77㎡である。

調査成果

基本層序　①盛土、②現代耕作土、③床土、④黒褐色粗砂・小礫混じり土（縄文晩期遺物包含層）、⑤硬く締まる灰黄褐色粗砂･小礫（縄文晩期遺構面）⑥砂・粗砂である。④層は厚さ５～10ｃm、遺構面の標高は43.3～43.4 mで､北に向かい低くなる。

縄文晩期遺物包含層　縄文晩期土器の細片が多数出土した。突帯文を有するものは少なく、突帯文出現以前の篠原式が主体になる。

ピット集中部（住居？）　調査区中央で確認した49基のピット群で、中心に土坑１基がある。ピットは、中央土坑を中心に直径6.5 mの範囲におさまり、その外には存在しない。中央土坑から炭や焼土は未確認だが､住居跡の可能性も想定しておきたい。

北西端落込み（住居？）　北西の突出部で、浅い落込みとして検出し、埋土を除去してピット３基を確認した。なお北西隅のベース面上で炭細粒を確認し、埋土から突帯文土器細片が出土した。遺構規模は不明だが､住居跡の可能性も想定しておきたい。

この他に北に傾斜する微低地と土坑５基を確認した。

まとめ

ミヤケ北遺跡は、梅川の氾濫で形成された河岸段丘上に立地する縄文時代晩期の居住域と考えられ、太子町での縄文遺跡としては最初である。遺跡範囲は、今後の調査で明らかになるであろうが、サヌカイト片等の散布状況から、今回の調査地点を中心にして南北道路（主要地方道柏原駒ヶ谷千早赤阪線）の東側に沿った長さ250 m、幅30～40 m程度の範囲を想定しておきたい。

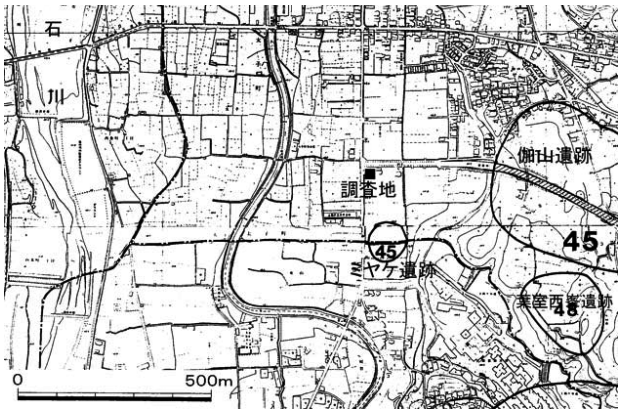


図16　調査地位置図

図18　ピット集中部（北西から）

図17　調査風景（北から）

図19　北西端落込み（南西から）

倉治遺跡（０９０１０）

（１）交野市倉治１丁目
（２）大阪府第二枚方警察署（仮称）庁舎建設
（３）小川裕見子

はじめに

大阪府第二枚方警察署（仮称）庁舎建設に伴い、倉治遺跡の発掘調査をおこなった。調査区は交野市倉治１丁目地内、府道交野久御山線沿いにあたり、面積は約 3,000㎡にわたる。周辺では、第二京阪国道建設にともない、倉治遺跡・東倉治遺跡・有池遺跡などの調査が実施された。特に有池遺跡の調査においては、古墳時代～中世にかけて顕著な遺構・遺物がみつかっている。

これまでに実施された倉治遺跡の発掘調査では、主に中世の遺構・遺物がみつかっていたが、今回の調査では古墳時代の遺構・遺物もみつかり、当該遺跡に新たな知見を加えることとなった。また、調査地近隣には交野市立倉治小学校があり、小学校６年生を対象に調査成果の見学会をおこなった。

調査の概要

平成 21 年度の調査も、これまでの調査と同様に、耕作の痕跡と柱穴を中心とする中世の遺構を検出した。今回の調査では、これらの従来の調査から継続する成果に加えて、さらに下層に古墳時代中期の集落跡がみつかった。

主な遺構面は３面あり、各々①近世（17 ～ 18 世紀以降）の耕作の痕跡、②中世（12 世紀前後～）の耕作の痕跡と掘立柱建物１棟、③古墳時代（５世紀中葉）の竪穴住居２棟と遺物を多く含む土坑・谷を検出した。

中・近世以降

ここで検出した耕作の痕跡は、鋤溝と推測できる小溝群である。ほぼ南北方向に平行して、幅 15 ～ 20cm ほどの溝が調査区一面に並ぶ。これらよりさらに新しい鋤溝群は直交してほぼ東西方向に並び、各々の溝幅もやや広い。中世の遺構面からは、陶磁器・瓦器・黒色土器・土師器・須恵器の破片が出土した。生活の痕跡を髣髴させる瓦質及び土師室の釜や鍋の破片も多くあった。

これに加えて、調査区の南東角付近で２間×２間の掘立柱建物の痕跡を確認した。調査区内にはこれより他に同様の建物跡は見つからなかったが、このさらに南東で柱穴痕跡を１つ確認しており、建物域が調査区外のさらに南東へひろがった可能性が高い。この遺構は地山直上で検出し、また、調査区の東半は中世の遺構が最終面であった。

古墳時代

古墳時代の遺構は調査区西半のみで検出した。地山は調査区の東から西へかけて下降し、東半で検出した中世の耕作痕跡から継続する遺構面のさらに下層に、調査区西半では古墳時代の遺構面が存在した。とはいえ、堆積は薄く、鋤溝を完掘すると底面では、古墳時代の土器が露出している状態であった。

ここでは竪穴住居を２棟検出した。どちらも小ぶりであったが、竈の痕跡と壁溝を伴う。また、建物主軸がほぼ南北方向で、２棟の主軸は一致するため、同時期のものであると推定できる。うち１棟からは５世紀中葉に相当する須恵器の杯蓋が出土しており、これをこの集落の時期の目安と考える。他には、軟質韓式土器の平底鉢や甑が出土しており、渡来系集落であった可能性が高い。もう１棟からは製塩土器が出土した。

これに加えて住居址の北側で弧を描くように住居址を囲う谷からは多くの須恵器が出土した。住居址西側の土坑からも、土師器高杯・甕や須恵器杯蓋などが出土した。

図 20　谷部調査風景

図 21　竪穴住居を見学する小学生

池内遺跡（０９０１３）

（１）松原市天美東２丁目・７丁目
（２）都市計画道路大阪河内長野線整備事業
（３）服部文章

はじめに

調査は、事業路線であるが都市計画道路府道大阪河内長野線が現府道大堀堺線に接続する部分の東西両側において、事業予定に伴い拡幅改良工事が予定される区域内に幅２m、長さ２～５mの調査区８ヶ所を設定して実施した。

調査は、第二今井戸川西側を東端とし、現道幅員が狭くなる現弁天池北東の交差点を西端とする間を試掘対象とした。調査区は全て現府道大堀堺線に沿って事業用地取得が完了した南側の事業予定地に設定し、東から順に No.1 調査区から現弁天池東側を No.8 調査区とした。調査対象区間の延長は約 330 m、試掘面積は 54㎡である。

調査成果

本線事業予定地より東側に設定した No. 1 ～ No. 3 調査区では旧耕土層下で地山層と見られる黄褐色系の粘質土に至り、遺構・遺物とも確認されなかった。

No. 4 調査区は、本線事業予定地東辺付近に設定した調査区である。現地表は T.P.+11.80 m付近を測る。T.P.+10.70 m付近で旧耕土層に至る。旧耕土下は層厚３～5㎝の薄いややシルト質の灰色粘質土層を介して T.P.+10.50 ～ 60 m付近で黄褐色粘土の地山層に至る。遺構・遺物共に認められないが、地山上面では西へ向け灰色粘質土層が砂質化して広がる傾向を示し、付近での土地利用状況が変化する状況を示す可能性が示唆された。

No. 5 調査区は、本線事業予定地と現府道大堀堺線との交点ほぼ中央に当たる。現地表は、T.P.+11.70 m付近に当たり最も低い。盛土下 T.P.+10.70 m付近で旧耕土層に至る。旧耕土直下、T.P.+10.60 m付近で層厚約 10 ～ 20㎝を測るややシルト質の黄灰色粘質土に至り、瓦器・須恵器の細片が出土した。本線部分の試掘調査結果と合わせ、中世遺物包含層が付近まで広がるものと判断された。黄灰色粘質土層下 T.P.+10.40 m付近で明黄褐色粘土層の地山層に至る。地山層上面では浅い溝状の落込みが認められ、中世耕作面が付近一帯に遺存するものと判断された。

No. 6 調査区は、本線事業予定地から西へ約 90 mの地点に当たる。現地表は、T.P.+11.80 m付近に当たる。T.P.+10.70 m付近で旧耕土層に至る。旧耕土下 T.P.+11.50 m付近で層厚約 20㎝を測る黄灰色粘質土の中世遺物包含層に至る。黄灰色粘質土層からは、同様に細片ではあるが瓦器・須恵器片が出土し、中世耕作面が付近一帯に遺存するものと判断された。

No. 7 調査区は、本線事業予定地から東へ約 140 mの地点である。現地表は T.P.+12.20 m付近、旧耕土層上面は T.P.+10.80 m付近である。旧耕土層下のブロック状のオリーブ灰色粘質土層は層厚 10 ～ 15㎝を測り、陶器椀の高台が出土した。さらに下位には東へ向けやや下降していく砂混じりの暗オリーブ灰色粘質土を介し T.P.+10.40 m付近で湧水の著しい灰色粗砂に至る。こうした状況から本地点西側には谷状地形や埋没河川等が存在し、中世の耕作地の縁辺が本調査区東側付近に当たるものと判断された。

No. 8 調査区は、調査対象区域西端で、本線事業予定地から西へ約 180 mに当たる。調査区東辺部で旧弁天池東辺堤の痕跡が認められたが、近世以前に遡る遺物は認められなかった。

まとめ

以上の結果から No.5 ～ No.6 調査区を中心に No.4 ～ No.7 調査区では中世の遺物包含層がさらに広がっていることが明らかとなり、その範囲では中世 13 世紀ごろの耕作面が遺存する可能性が高いものと判断された。

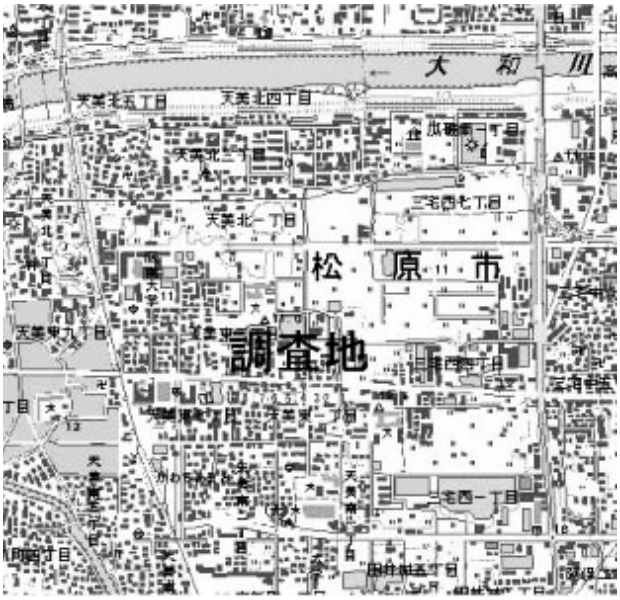


図 22　池内遺跡試掘調査地位置図

甲田南遺跡（０９０１４）

（１）富田林市甲田３丁目
（２）一般国道（旧）１７０号線歩道設置工事
（３）山田隆一

はじめに

現地は、国道 309 号線と国道 170 号線が交差する交通量の激しい箇所であり、工事はそれを緩和すべく後者を拡幅するものである。調査区は、国道 170 号線の西側に沿う長さ約 80 m、幅約 4 mの範囲で、調査面積は 316㎡である。

調査成果

現代耕作土と床土の下は、中世以降の耕作土（第 2 層）、中世の遺物包含層（第 3 層）、古代以前に形成された包含層（第 4 層）、上面が古代以前の遺構面になる堅くしまるシルト層（第 5 層）である。第 4 層上面と第 5 層上面で遺構を検出した。

主要な遺構としては、以下のものがある。

弥生土器棺　完形の甕を棺身、口縁を打ち欠いた大型鉢を蓋にする。墓坑平面形は卵形で、規模は長軸約 90cm、短軸約 80cm、深さ 40cm 以上である。頭部は東向き。弥生中期後半に位置付けられる。

土坑ＳＫ 04　規模は南北約 1.8 m、東西約 1.4 m以上、深さ約 15cm の不定形な土坑ある。多数の弥生中期後半の土器片の他、磨製石剣が出土している。

溝ＳＤ 02　南西から北東に、直線的に掘削された溝である。規模は幅 0.6 ～ 1.0 m、深さ約 50cm であり、断面形態は凹形を呈する。最上層から 6 世紀後半の須恵器が集中的に出土した。

竪穴建物ＳＨ 02　平面形態は長方形を呈し、規模は南北 4.9 m、東西 3.3 mである。東辺 0.5 mは竪穴建物ＳＨ 01 に破壊される。東辺中央部の壁面に竈が設置される。6 ～ 7 世紀に位置付けられる。

中世墓　墓坑の平面形は隅丸方形、規模は長軸 1.55 m以上、短軸 1.46 m、深さ約 0.15 mである。棺は東西 1.05 m、南北 1 m程度の木棺と考えられる。瓦器椀・同小皿・土師器小皿、鉄鎌が出土した。

まとめ

以下のことが明らかになった。

①甲田南遺跡は、弥生中期後半の遺跡である。今回調査区から南東 80 m地点が中心部で、多数の竪穴住居と方形周溝墓が確認されている。一方今回の調査地周辺は微低地で、集落域からは外れると考えられてきた。しかし今回、遺構密度は低いものの、土器棺や複数の土坑、住居の可能性のあるピット群も確認できた。時期も中心部と同じ中期後半で、小規模な居住域の存在したことが明らかになった。

②中世の遺構と遺物が確認できた。遺構は墓と柱穴で、居住域とそれに隣接する墓と考えられる。

③中世以降に凹凸のある地形が改変され、平坦化したことがわかった。調査地周辺が、条理地割の南端に想定されていることから、それは本地域での大規模開発の一環であったと考えられる。

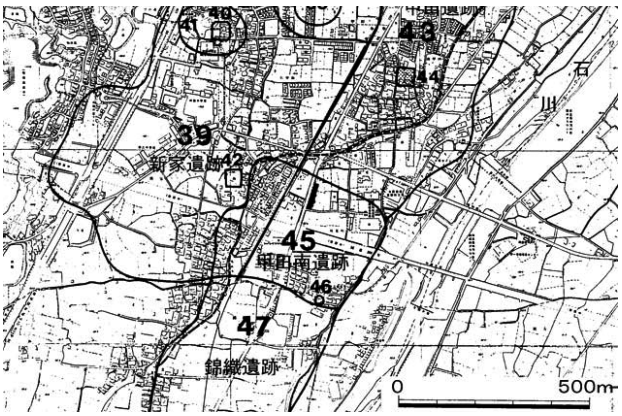


図 23　調査地位置図

図 24　弥生土器棺（南から）

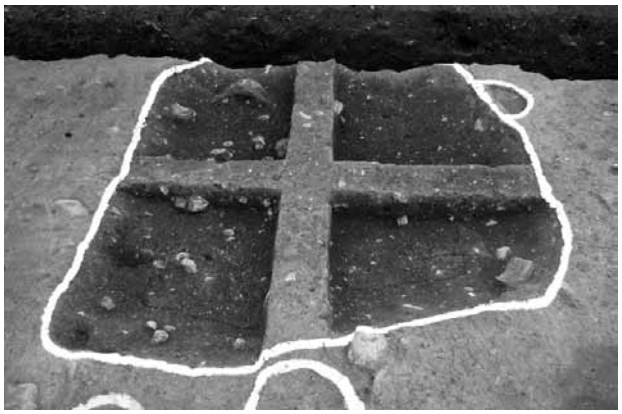


図 25　中世墓（西から）

和泉寺跡（０９０１７）

（１）和泉市府中町４丁目
（２）都市計画道路大阪岸和田南海線建設事業
（３）土屋みづほ

はじめに

平成 17、18 年度の試掘調査の成果により和泉寺跡、府中遺跡の範囲拡大を行い、平成 20 年度より、道路予定地内の発掘調査を実施している。平成 21 年度は、調査番号 09017 として、和泉寺跡内に２つの調査区（09-01 区、09-02 区）を設定して調査を行った。さらに、調査番号 09049 として、和泉寺跡、府中遺跡内に３つの調査区を設定し、平成 22 年度にかけて調査を実施している（図 26）。ここでは、平成 21 年度内に調査が終了した 09-01 区、09-02 区について報告する。

調査の概要（09-01 区）

２面の遺構面を確認した。第１面では、調査区の北側で、北東―南西方向の鋤溝群を検出した。遺構内からは、須恵器、土師質土器などが出土した。遺構内出土遺物はいずれも小片で、詳細な時期は不明であるが、遺構面直上の包含層出土遺物より 14 世紀以降と推定できる。

第２面では、調査区の南側で、土坑３基と溝１条を検出した。土坑のうち２基は廃棄土坑で、瓦、土師器、須恵器、弥生土器などが出土し、特に瓦が多く見つかった。出土遺物より、第２面は古代（８世紀頃）に位置付けられる。

特筆すべき遺物としては、軒丸瓦、軒平瓦、鴟尾、熨斗瓦に加え、文字瓦４点が出土した。文字瓦はいずれも平瓦で、凹面にヘラ書きにより、それぞれ「珎縣主廣足作」「坂合部連前」「讃美カ」「美カ」と記されている。

調査の概要（09-02 区）

３面の遺構面を確認した。第１面では、溝状遺構１基と、土坑を検出した。溝状遺構は、南北方向で、北側は調査区外へとのびる。南端は急勾配で立ち上がり、東側は平坦面を有し階段状となる。長さ 28 m以上、最大幅約４m、深さ約２mである。埋土下層がグライ化しており、ため池として利用されていた可能性が考えられる。第１面の遺構内からは、瓦器、須恵器、土師質土器、磁器などが出土した。出土遺物より、18 世紀以降に位置付けられる。

第２面では、土坑、ピットを検出した。遺構内からは、瓦器、土師質土器、須恵器、土師器などが出土した。出土遺物より、中世（12 ～ 14 世紀頃）に位置付けられる。

第２面のベース層である褐色粘土を除去すると、砂礫層を検出した。砂礫層上面は南西方向に向かって約 0.7 m落ち込んでおり、自然流路跡と考えられる。埋土上層からは、弥生時代後期から古代の遺物が、下層からは弥生時代後期から古墳時代の遺物が出土し、特に、弥生時代後期後半から庄内式並行期の土器が多く出土している。

第３面では、ピットを検出した（図 27）。上述の砂礫層上面に該当する。遺構内からは弥生土器などが出土したが、少量で、小片のみである。遺構面直上の包含層出土遺物より、弥生時代後期後半から古墳時代の遺構面と考えられる。

特筆すべき遺物としては、文字瓦１点が出土した。平瓦の凹面にヘラ書きにより「宮」と記されている。中世の包含層からの出土であるが、09-01 区第２面遺構内から出土した文字瓦と同様の特徴をもつことから、同時期に位置付けられる。

まとめ

今回の調査では、寺院と直接関係する遺構ではないものの、古代の土坑などを検出し、瓦も多く出土した。特に、５点の文字瓦、中でも古代氏族名が記された文字瓦の発見は、寺院の建立に関わった氏族を示す重要な成果である。

図 26　調査地位置図

図 27　09-02 区第３面全景

安松田遺跡（０９０１８）

（１）泉佐野市東羽倉崎町地内
（２）府営東羽倉崎住宅３期建替え事業
（３）服部文章

はじめに

府営東羽倉崎住宅３期建て替え事業に先立ち、平成 15 年度の１期、平成 18 年度の２期に続き実施した。調査面積は住棟部分 1,014㎡である。

調査の概要

調査の結果、過去２回の調査でも数多く見つかったものと同様の土坑が多数検出され、土坑の分布範囲が府営住宅の敷地南東部にまで広がっていたことが明らかとなった。これらの土坑は、大きいもので径約５m、小さいもので径約 0.5 mで、形状は、円形のもの、方形のもの、不定形のものなど、いくつかのバリエーションが認められる。深さも 30 ～ 70㎝と差があり、地山面の明黄褐色の粘土を掘削し、その下位に堆積する灰色粘土に到達すると更には掘削を行わない状況を示す。埋土は、緻密に詰まった黒色粘土や、やや砂混じりの黄灰色土、これらが互層状に堆積したものや、地山の黄褐色粘土がブロック状に混じるものなど、埋まり方にもいくつかのパターンが認められた。検出された土坑は、大小合わせて 177 基を数える。

調査区の南東壁面付近で検出された 174 土坑では、赤褐色の焼土塊や瓦片が詰まった状況が認められたほか、調査区南東部の土坑を中心に灰層が流入したような状況を示す埋土も認められた。また出土遺物には、焼成不良の瓦片が多数出土しており、こうした状況から付近で瓦窯が営まれたことが想定された。瓦窯本体は、南東側の調査区外に存在したものとみられ、付近には製品として出荷されなかった不良品の瓦片や灰などとともに瓦窯の改修や廃絶に伴って焼土塊などが散乱し、174 土坑はそれらが最終的に廃棄されて埋没したものと考えられた。また 174 土坑は、底部にほぼ完形の平瓦２枚がほぼ水平に敷き並べるように設置されており、他の土坑とはやや異なった様相を示している。

図 28　調査地位置図

検出された土坑は、地山層上部の明黄褐色粘土のみを掘削し、下位の灰色粘土は掘削しない状況が認められることや、調査区からは焼成不良の瓦片が多数出土していることから、これらの土坑は瓦生産の原料となる粘土の採掘坑である可能性が高いものと推測される。また検出された土坑は、調査区の東部から西へ向けて新しくなる傾向が指摘でき、焼成不良の瓦片の出土量は東部に多く西へ向けて希薄になる傾向を示している。このことから、前述の瓦窯が想定される区域とともに、調査区の南東側区域一帯に瓦生産の工房的機能が想定され、それに隣接する区域から原材料となる粘土の採掘坑が連続的に掘削され、採掘可能な粘土層を求めて西或いは北西側へ土坑の掘削が展開されたものとも考えられる。

焼成不良の瓦片を除くと全体に出土遺物は極めて少ないが、数基の土坑から土師器椀や瓦器椀などが検出されており、これらの土坑は 12 世紀末～ 14 世紀前半にかけて形成されたものと判断された。

まとめ

今回の調査成果は、往時、付近一帯では土坑状の採掘坑を連続的に繰返し掘削し、採掘される粘土を原材料として、盛んに瓦生産が行われていたことを窺わせる貴重な資料と考えられる。

図 29　174 土坑平瓦出土状況

図 30　調査区全景（南西から）

国府遺跡（唐櫃山古墳）（０９０２２）

（１）藤井寺市国府１丁目地内
（２）一般国道（旧）１７０号及び主要地方道堺大和高田線改良工事
（３）西川寿勝

はじめに

主要地方道堺大和高田線拡幅･近鉄「土師ノ里駅」駅舎改良などに伴い、平成 18・19 年度事業に継続して発掘調査を実施した。

唐櫃山古墳は昭和 30 年、道路建設に先立って、北野耕平氏によって主体部の調査が行なわれた。その後､後円部の大半は削平されて道路となっている。平成 13 年度に道路北側の歩道設置に伴い、後円部東側周溝と削平された墳丘の調査が行なわれた。さらに、平成 19 年度に後円部西側周溝が調査された。

今回調査区は 19 年度調査区の東に接し、唐櫃山古墳後円部西側周溝から墳丘南端をかすめ、東側周溝に至る部分である。現地調査は平成 21 年 9 月初旬から 10 月末まで実施、約 150㎡に及ぶ。

調査成果

調査の結果、唐櫃山古墳の後円部墳丘の一部と東西の周溝を確認した。墳丘基底面は表土を取り除いた地山層に、周溝掘削土と思われる地山の黄褐砂礫土と同系統の粘土を積み上げたものである。

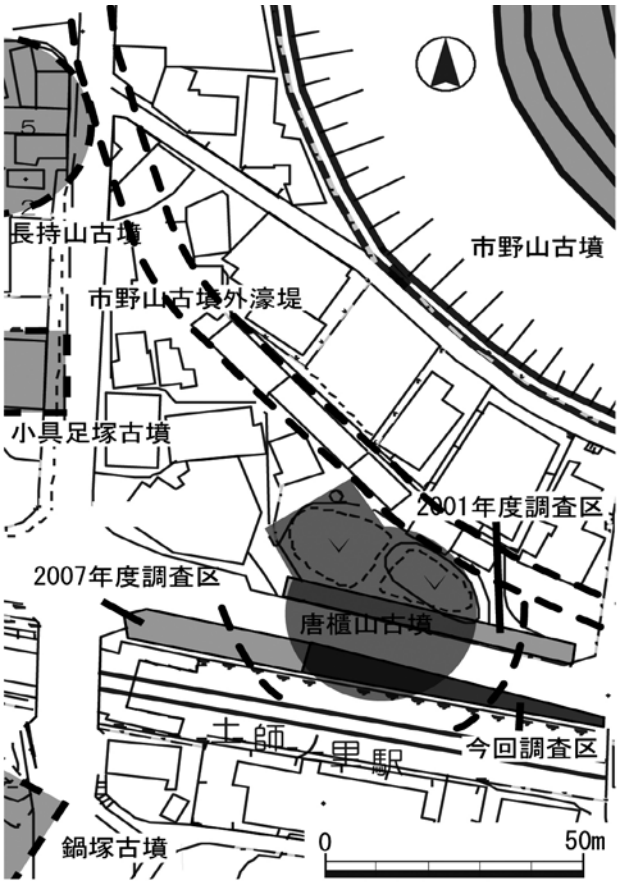


図 31　調査地位置図

墳丘盛り土内部から僅かながら円筒埴輪が出土している。これは近隣の古墳や市野山古墳外堤を削ってもたらされた可能性もあるが、本墳を削平する過程で移動した二次堆積土かもしれない。

周溝には葺き石がずり落ちたように確認された。また、多くの円筒埴輪片がみつかった。しかし、中世瓦器椀や近世陶磁器も混ざり、周溝の埋没は 17 世紀以降のようだ。

葺き石は大半が人頭大で、風化をあまり受けていない川原石だった。地山段丘層中にもいくらかの円礫が含まれるものの、これらは表面の風化が著しく、葺き石は別途運ばれてきたものであることがわかる。

原位置を保つ葺き石はなかった。周溝からみつかった 67 個について、産地同定を奥田尚氏に依頼した。その結果、本墳東側の石川から七割、柏原市国分付近の原川と柏原市高井田より上流の大和川の川原より採集された礫群がそれぞれ一割程度含まれることが判明した。

また、残りの一割は丘陵露岩にみられる割れ石で、これらは柏原市芝山頂上東南に分布する芝山火山岩、奈良県王寺町亀の瀬付近にみられるドロコロ火山岩、柏原市青谷西方付近にみられる片麻状アプライトであった。

図 32　調査区全景（西から）

奥田井遺跡（０９０２３）

（１）河内長野市鳩原地内
（２）府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
（３）西川寿勝

はじめに

河内長野市鳩原の水田をほ場整備する事業に先立ち、平成 18 年度に試掘調査を実施、古代～中世の遺構・遺物が確認された。そこで、試掘によって導かれた開発地域を新たに奥田井遺跡とし、19 年度より発掘調査を実施することとした。

奥田井遺跡は金剛山から流れ出る石見川が形成した川上谷のわずかな平坦面に位置する。北側に大沢道 (現国道 310 号線) があり、南側に延命寺に至る道 (現府道河内長野千早城跡線) がある。調査区はその結節点に位置する。

大沢道は東高野・西高野・中高野の三街道が一本になる河内長野市の七ツ辻から観心寺を通って、上赤坂城の眼下を大沢峠へぬけ、高野山に至る古道として知られる。また、延命寺に至る道は七つ辻から天見谷を通って紀見峠から高野山に至る高野街道と大沢道をつなぐもので、途中に延命寺がある。

現地調査は平成 21 年 10 月～ 22 年 2 月に実施した。調査区は 1・2 区に別れ、合計 400㎡に及ぶ。

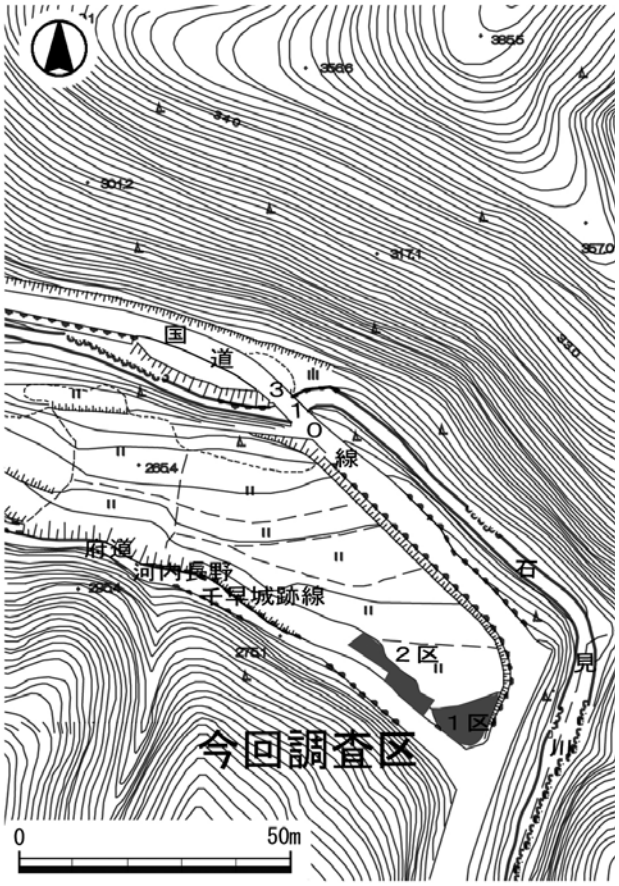


図 33　調査地位置図

調査成果

調査の結果、顕著な遺構は確認されなかった。遺物はサヌカイト剥片石器一点と、中世～近世の土器・陶磁器など、コンテナ一箱である。

中世の土器は大半が在地の粘土による土師皿で、南北朝期と思われる小型化した瓦器椀が少量ある。他に、瓦質すり鉢・土師質羽釜がある。備前焼の鉢か、壷と思われる小片もある。

中国製磁器には 14 世紀ころと思われる青磁がある。いずれも良質の胎土で浙江省龍泉窯系と考える。外面にしのぎ蓮弁を型押しする青磁椀は蓮弁の幅が 1cm に満たない硬直化したものである。

近世の陶磁器は肥前磁器と京焼系の陶器などがある。椀が大半でこの時期には居住域が遠くはなれ、遺跡は生産域のみであった可能性が高い。また、現代の水田耕土下には茶畑の畝溝と思われる凹凸が確認されており、この畝は近世にさかのぼる可能性もある。

図 34　1 区全景（西から）

図 35　2 区全景（西から）

田尻（たじり）遺跡（０９０２６）

（１）泉南郡田尻町吉見地内
（２）一般府道新家田尻線歩道設置工事
（３）中野篤史（田尻町教育委員会）・三木　弘

はじめに

一般府道新家田尻線歩道設置に伴う発掘調査を、平成 19 年度より田尻町教育委員会と共同して実施してきた。平成 21 年度は調査の最終年度にあたり、事業予定地の東側中央部（田尻中学校総合運動場西側）で発掘調査を行った。調査面積は 250㎡である。

調査成果

基本土層は現地表面下の現代盛土、旧耕作土の下に土師器・瓦器・磁器・陶器を含む黄褐色系砂質土（層厚 20cm）、土師器・須恵器を含む灰色系粘質土（層厚 5 ～ 10cm）があり、暗灰黄色粘質土の基盤層へと続く。

検出した遺構は土坑、溝、落込み、耕作痕であった。土坑は 2 基あり、そのうちの 1 基（SK86）は西端部が調査区外に延び出ているため全形を捉えることはできないが、現状の幅は 1.2m、最も深い部分で 60cm を測る。覆土は灰色系粘質土である。出土遺物がなかったので時期比定はできないが、基盤層上面からの掘り込みであることから、中世以前の遺構だと推定することができる。

溝は 3 条を検出した。SD22 は幅 1 m、深さ 10cm を測る。落込みと重複しているので本来の規模より小さくなっている可能性が高い。SD23 は幅 0.8m、深さは 40cm を測る。部分的に 2 段掘りになっている。南端は SD24 と合流する。SD24 は幅 0.8m、深さ 15cm を測る。いずれの溝からも遺物は出土していないので時期は不詳であるが、耕作に関わるものと推測する。

今回の発掘調査により出土した遺物は、大半が旧耕作土下の黄褐色系砂質土や灰色系粘質土に包含されたものであった。

出土遺物には弥生土器、須恵器（杯、鉢）、瓦器（椀）のほか、土師質の土錘、蛸壺、サヌカイト剥片がある。平成 19・20 年度の発掘調査においても同様の遺物が出土していて、特別のものは認められない。

まとめ

今回の調査では耕作に関わる複数の溝が検出されていて、中世以降は一帯が生産域になっていたと考えられる。その一方、土錘や蛸壺という、漁労に関わる遺物も出土している。既往の調査でも見つかっていて、現在の海岸線まで 1.7km しか離れていないこの遺跡の性格を端的に示している。

ただ今回の調査では、既往の調査において検出された古墳時代の大溝は発見されず、当該期の様相をさらに深めることはできなかった。

図 36　調査位置図

図 37　溝 SD23・24

図 38　耕作痕・土坑

大町（おおまち）遺跡（０９０２９）

（１）岸和田市大町４丁目地内
（２）府営岸和田大町住宅建て替え工事
（３）三木　弘

はじめに

府営岸和田大町住宅の建替え工事に伴う発掘調査を、平成 15 年以来断続的に行ってきた。今回は道路敷設工事に伴う調査である。おおよそ幅８m、全長 99m、面積約 800㎡を測る。

調査成果

調査地点は大町遺跡の北東部に当たっている。基現地表面下の盛土と旧耕作土・床土（層厚 10cm）の下に青灰色砂シルト、灰色砂シルト、褐灰色砂質土などからなる基盤層があり、その上面で近世およびそれ以前の遺構を検出した。

遺構には、水田に関連するとみられる落込みや耕作痕のほか、溝、土坑、小穴などが認められた。埋没時期を示す遺物を伴出した遺構はごく僅かであり、大半の遺構は時期不詳である。

さらに、河道３条（001・002・006）を検出した。001 河道は調査区の南西端近くに位置している。幅 6.5m、深さは最大 1.7m まで調査した。弥生中期中葉～布留式期までの遺物を包含していた。

この河道 1 の前身河道である 002 河道は、南西岸が調査区外に延び出ているためその幅は不明であるが、現状でも 21.5m を測る巨大な河道である。深さは 1.9m まで調査した。この河道では弥生中期後半～庄内式期までの遺物が出土した。したがって、庄内式期にいったんほぼ埋没した 002 河道の脆弱な堆積部分を流水が切り込んで 001 河道が形成されたと考えられる。

002 河道の北東岸付近では、岸から落ち込むような状態で庄内式期の土器がまとまって出土した。Ｖ様式系甕をはじめ、壺、高杯、鉢があり、高杯と鉢には複数の形態が認められた。しかもほぼ完形のものや、完形に近いものが多くあり、出土地点付近で廃棄され、短時間のうちに埋まったとみられる。

006 河道は調査区の北東端近くで検出された。幅は７m を測り、深さ 1.0m まで調査した。河道内に含まれた遺物は極めて少なく、遺構検出面下 0.8 ～ 1.0m の間で縄文時代後期後半の土器片 1 点を検出したにすぎない。

これらの河道は上述の基盤層を切り込んで形成されているが、基盤層からも弥生中期後半～庄内式期の土器やサヌカイト剥片が出土した。このことから、調査地一帯は古墳時代前期前葉まで河川の氾濫が頻発した、不安定な土地であったと考えられる。

図 39　001・002 河道全景

図 40　土器出土状況

図 41　甕・高杯出土状況

芹生谷遺跡（０９０３０）

（１）南河内郡河南町大字芹生谷地内
（２）一般国道 309 号（河南赤阪バイパス）整備事業
（３）杉本清美

はじめに

芹生谷遺跡は、河南町大字中・芹生谷から千早赤阪村大字川野辺にかけて所在する古墳時代から中世に至る集落遺跡である。平成 19 年度に実施された試掘調査で新しく発見された遺跡である。芹生谷遺跡の傍らには国史跡金山古墳が立地する。

今回の調査は、一般国道 309 号 (河南赤阪バイパス) 整備事業に伴う水路等付け替え部分の発掘調査である。調査区は、南側の丘陵頂部から斜面地にかけての幅約 2 ～ 6m ×延長約 140m の調査区と、丘陵張り出し部の幅約 5.5 m×延長約 44 mの調査区で合計約 950㎡を測る。現地調査は平成 21 年 12 月 1 日から翌年 2 月 4 日まで実施した。

調査成果

今回の調査では、調査区の幅が狭く、また急斜面にあたる部分もあったが、それにもかかわらず多くの成果を得ることができた。調査区南側の丘陵頂部では、現在耕土の直下で掘立柱建物の柱穴跡や耕作溝跡などを検出した。丘陵部の自然地形に沿って建物や耕作地が広がっていたものと見られる。

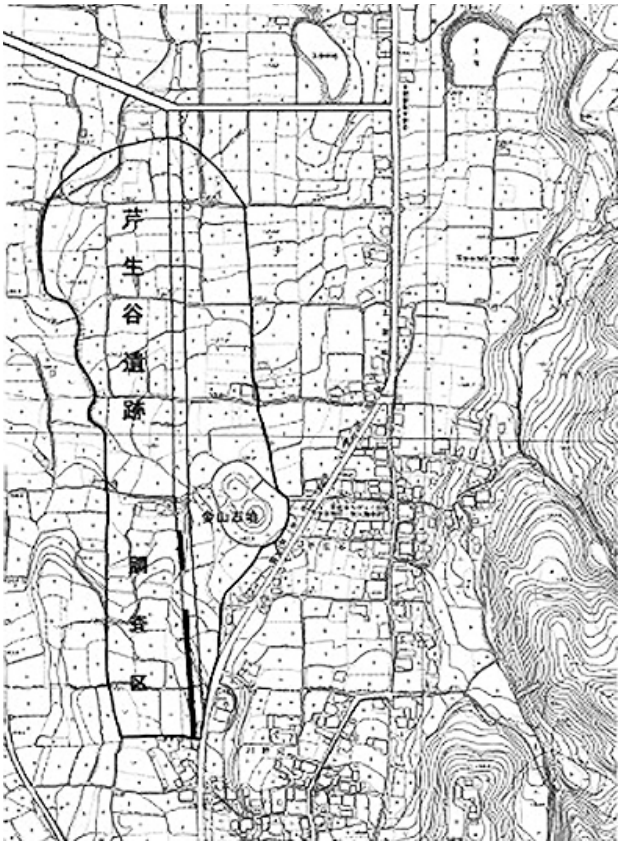


図 42　芹生谷遺跡調査区位置図

緑釉陶器片、内黒の黒色土器椀片や土師器皿、杯、羽釜片、瓦器椀片などが出土した。地山直上面では石製槍などサヌカイト片がいくつか見られた。

丘陵張り出し部では、現在耕土および旧耕土層 (灰褐色粘質シルト) の下面で小柱穴や小土坑、溝などを検出した。土師器小皿、皿、羽釜片、瓦器椀片、青磁椀片などが出土した。また、ふいご羽口片や鉄宰などが見られた。調査区周辺に鍛冶関連遺構が存在するもの思われる。

まとめ

調査の結果、南側から張り出す丘陵上には、平安時代から中世にかけての集落域と耕作地が広がっていたことが確認された。

図 43　建物柱穴検出状況（西から）

図 44　遺構検出状況（南から）

柳原遺跡（０９０３１）

（１）池田市城南３丁目地内
（２）府営池田城南住宅建替え事業
（３）岡本敏行

はじめに

柳原遺跡は、今回新たに発見された古代から中世の遺跡である。発見の契機は、府営池田城南住宅建て替えに伴う試掘調査で、今回の調査がこれにあたる。調査は、工事対象地内にＡ・Ｂ２ヶ所のトレンチを設定し（各トレンチの大きさは 2.0 × 2.0 ｍである）、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械および人力を用いて掘り下げた。

調査成果

西側に設定したＡトレンチでは G.L －約 80cm で黄褐色粘土の地山面に達する。その間の基本的土層は、上からアスファルト（層厚５cm）、現代の整地土（層厚 20cm）、茶褐色粘質土（層厚 20cm）、灰色砂礫（層厚 20cm）、暗灰褐色粘質土（層厚 15cm）が堆積する。この内、第３層の茶褐色粘質土は江戸時代以前の整地土と考えられるが、12 世紀代の土師器皿が出土し、同時期の遺跡の存在が想定されるとともに地山面北側で土坑状の遺構を検出した。

また、東側に設定したＢトレンチでもＡトレンチ同様 G.L －約 85cm 前後で黄褐色粘土の地山面に達する。その間、基本的には４層に分層が可能で、上から現代の盛土（層厚 30cm）、現代の整地土（層厚 25cm）、淡黄灰色粘質土（層厚 15 ～ 25cm）暗灰褐色粘質土（層厚 10 ～ 15cm）が堆積する。地山面で、時期は明確ではないが土坑およびピット状の遺構を検出した。

なお、対象地域においては、平成 16 年にも試掘調査が実施され、土師器小片を含む溝もしくは土坑状の遺構が検出されている。

まとめ

当該地域では、これまで周知の埋蔵文化財包蔵地は知られていなかったが、上記のように今回の試掘調査において遺構および遺物が発見された。それにあわせて当該地は「柳原遺跡」として新たな埋蔵文化財包蔵地として周知されるにいたった。

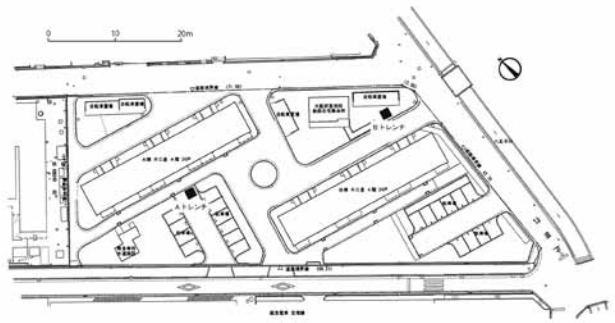


図 45　トレンチ配置図

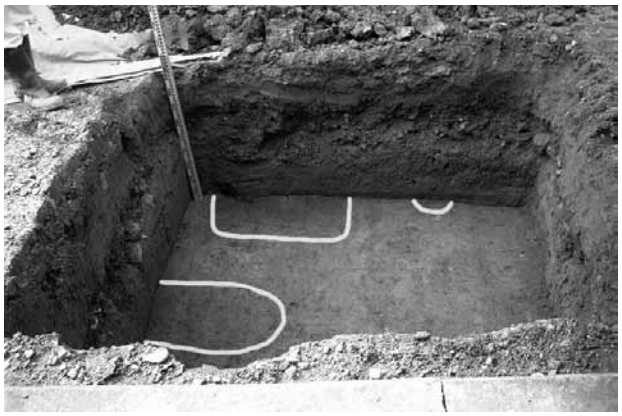


図 46　Ｂトレンチ（北から）

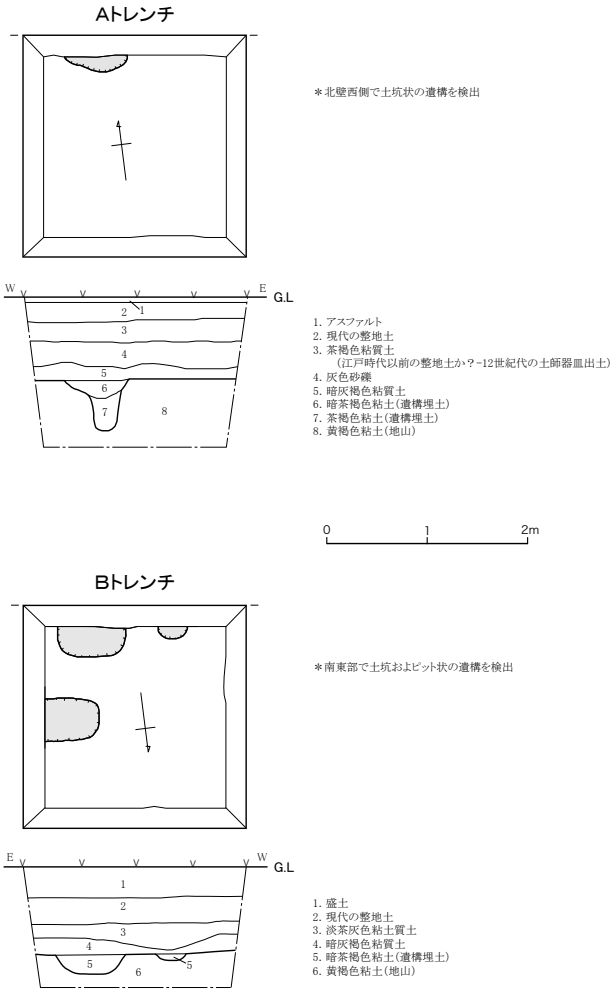


図 47　トレンチ略測図

中垣内遺跡（０９０３２）

（１）大東市寺川１丁目２－１
（２）府立野崎高等学校下水道放流切替工事
（３）宮崎泰史

はじめに

中垣内遺跡は、大東市中垣内を中心に広がる縄文時代から中世にかけての大規模な複合遺跡である。今回の調査は野崎高等学校敷地内において下水管及びグリーストラップ（油脂等を分離する阻集器）の設置、下水管及び汚水桝の新設、汚水処理場の撤去・新設に伴う事前調査及び立会調査である。工事に合わせて調査地点をそれぞれＡ～Ｅと呼称している。

調査の経緯

Ａ区は汚水処理棟の建て替えに伴う調査で、高等学校敷地内の北東に位置する。工事深度がマイナス1m を超えないということで、遺構面の有無を確認するために汚水処理場と三次処理装置の間に２×2m のトレンチを設け、深さ 1m まで機械と人力を併用して掘削を行った。

Ｂ区はＡ区の南側にあたり、二ヶ所の汚水桝の新設と下水管の設置である。下水管部分については幅1m で深さ 2.6m と狭いため立会調査、汚水桝については東側については既設部分での付替えのため立会調査とし、西側については一部下水管部分を含めて、機械と人力を併用してマイナス 2.8m（標高約2m）まで調査を実施した。

Ｃ区は下水管設置部分であるが､掘削深度が浅く、幅が狭いこと、及び既設管が存在することから立会調査。

Ｄ区については工事中止のため調査を行っていない。Ｅ・Ｆ区は敷地内の南に位置する。いずれもグリーストラップの布設工事であるが、南側において古墳時代の遺構・遺物が濃密に検出されていることから、慎重を期して立会調査を行った。

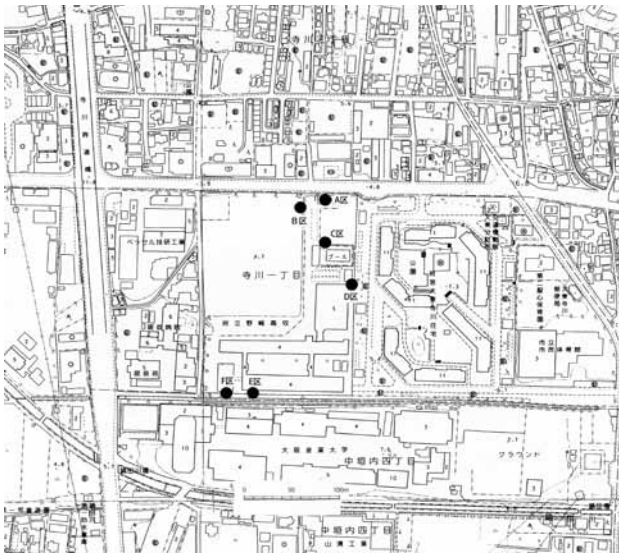


図 48　調査区位置図

調査の概要

発掘調査及び立会調査の結果、Ａ区及びＣ区は工事掘削が盛土内で収まり、Ｅ・Ｆ区は既設施設の構造物設置によって周辺部分は破壊され、遺構・遺物は検出されなかった。Ｂ区は調査の結果、1 ～ 17 の堆積層を確認した。1 ～ 8 は整地土で、高等学校建設に伴う盛土と考えられた。11 層から近世の染付、14 層から土師器の小片、17 層から弥生土器の小片が確認された。なお、Ｂ区は、Ａ区同様、中垣内遺跡の北に隣接する地点である。

以上、Ｂ区での調査は調査面積が狭いため、遺構は検出されなかったが、小片ではあるが、土師器や弥生土器が確認された点、周辺での大東市教育委員会の調査例からも、Ｂ区まで中垣内遺跡が広がる可能性も想定される。

図 49　調査地航空写真（北西上方から）

図 50　Ｂ区東側土層断面（西から）

待兼山遺跡（０９０３８）

（１）池田市石橋３丁目地内
（２）オアシス構想池推進事業「中山池地区」
（３）小林義孝

調査に至る経過　大阪大学の豊中キャンパスを中心に池田・豊中両市にまたがって所在する待兼山遺跡は､待兼山と呼ばれる丘陵上を中心に展開しており、いくつもの谷が丘陵に切り込み起伏に富んだ地形を呈している。今回対象となる中山池が築造された谷は、丘陵に深く刻まれ、中山池を挟んで上下三つの溜池が連続して造営されていた。

当該地周辺は、周辺の宅地開発等による確認調査等によれば、遺構・遺物が検出されたことがなく、当該地は文化財保護法による通知・届出不要のエリアに含まれていた。

今回、環境農林水産部によって中山池の堤体の改修と池周辺の整備事業が実施されることとなった。しかし工事が開始された直後に、工事実施範囲に、須恵器片等が散布しているという通報が大阪大学文学部考古学教室から本課にあり、直ちに現地を視察した結果、中山池の範囲の一部に須恵器片などの遺物が認められた。これを受けて環境農林水産部と協議を行い、当該の工事に際して現地表面以下を掘削する際には立会することとで合意し、適宜、立会調査を実施した。

池岸部の立会調査　中山池の改修事業においては、池の北岸において実施される遊歩道整備のために３ｍを越える盛土を施すこととなっていた。当該地点付近には最も遺物の散布が多く、工事に先立ちトレンチ状に掘削し、現地表面下の状況を確認した。

北から南(池の中心)に傾斜する谷の底面(地山面)上では遺構は確認されず、その上部の北側で 30cm 前後、南側で 1.0 ｍ前後の厚さをもつ堆積土から須恵器等の小片が出土したのみである。これらの遺物は池の北側の丘陵上から流入した可能性が高い。

堤体内側の立会調査　中山池の改修事業では、堤体の強度を高めるための改修と取水施設の改修が実施される。堤体の改修では、堤体の内側に積まれていた粘土層（鋼土）を取替えるため、堤体内側の全面に幅２ｍ前後のトレンチ状の溝を掘削した。この掘削時に断面を確認したが、池の底面とその上部に堆積した土砂から遺構・遺物は検出されなかった。

堤体の断面観察　また取水施設を新たに設置するために堤体の南部を幅約５ｍで立ち割った際に、堤体の断面を観察した。下幅 18 ｍ前後を測る堤体は、下幅 13 ｍ前後を底辺とする断面三角形の堤体の中心部とその内側（池側）に厚さ２ｍ前後の粘土（鋼土）を積上げて構成している。中心部は粘土質の土砂を積上げているが、施行工程を示す土砂の積上げの単位は確認できなかった。下部はより粘土質であり、上部はより砂質であるということが確認できたのみである。また堤体の外側法面には下部には礫層を上部には真砂層を貼り付けていた。

今後の対応　今回の立会調査によって、遺構や原位置を保った遺物の出土はみられなかった。丘陵上部から流入したと推測される須恵器等の小片が発見されたのみである。しかし広大な面積をもつ中山池の周囲は次年度以降さらに遊歩道等の整備が実施されることとなっており、その際に何らかの対応が必要であると判断された。

当該地が所在する池田市教育委員会は、今回の立会調査の結果により、中山池を土木工事の実施にあたっては文化財保護法による通知・届出が必要とする変更をおこなった。

図 51　調査地全景

図 52　中山池堤体断面状況

ミクリ遺跡（０９０４０）

（１）高槻市西町地内
（２）都市計画道路富田奈佐原線整備事業
（３）小林義孝

調査の経過

道路拡幅事業に伴う事業予定地は、茨木市鮎川から高槻市西町に所在する。茨木市域の部分は鮎川遺跡に、高槻市域はミクリ遺跡に当たる。当該事業に伴う事前の発掘調査は、平成 17 年度に鮎川遺跡（調査番号 05046、『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』10 参照）を、平成 18 年度には、鮎川遺跡とミクリ遺跡について実施した（調査番号 06024、『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』11 参照）。この２ヶ年度の調査により対象地の大部分の調査は終了したが、この時点で用地が確保されなかった部分について、平成 19 年度にはミクリ遺跡の２地点について調査を実施し（調査番号 0728、『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』12 参照）、本年度もミクリ遺跡の範囲内において未買収であった最後の１地点について発掘調査を実施した。平成 19 年度調査区 A の道路を挟んで南側に当たる。

調査成果

調査地は狭小であり、さらに隣接地（歩道）の通行者も多いことから、当初当該地区の中央に６ｍ×４ｍの調査区を設置し、地下の様相を把握した上で、顕著な遺構・遺物が検出された場合は、調査地を拡張するという方針のもとで調査を実施した。

基本的な層序は、厚さ約２ｍの第１層・現代盛土の下に旧耕作と考えられる第２層・黒灰色シルト（厚さ約 20cm）が見られた。以下、第３層・青灰色シルト（厚さ約 15cm）、第４層・淡褐色シルト（約 45cm）、第５層・暗灰色シルト（約 30cm）、第６層・黒灰色粗砂（厚さ約５cm）、第７層・黒灰色粘土（20cm 以上）が確認できた。第３層において土師器の小片が出土したのみで、他に遺構・遺物は検出されなかった。

当該調査区における土層の堆積状況は、従前の調査成果と整合的である。第３層は中世、第４層は平安時代の耕作土に相当し、第５層は流水堆積の影響を受けた土層、第６層が水田の耕作土層と推測される。本調査地点も、連綿と農業生産の場として活用されてきたことが明確である。

まとめ

今回の調査は、当該事業にかかる発掘調査が未実施であった小面積の調査区を対象とした。ここでは顕著な遺構・遺物の検出はなかった。しかしこれまで４ヶ年度の調査において把握した鮎川遺跡・ミクリ遺跡の土地利用の歴史を一層切れ間なく明らかにすることができた。この点が最大の調査成果である。

都市計画道路富田奈佐原線の整備事業に伴う発掘調査では、全長 400 ｍのトレンチを南北に設置することとなった。

最下層に弥生時代の流水堆積層が存在し、古墳時代始め頃に粘土層が形成されている。その上面では水田の畦畔が検出され、この時期に一部で耕作地化がはかられたと推測される。奈良・平安時代には部分的に河川跡が確認され、再度不安的な状況になるが、中世以降には全面に客土による盛土が施され、耕作地として活用される。客土された土砂には、平安時代と鎌倉時代の遺物が比較的集中して出土する部分があり、調査区の近辺に当該の時期の遺跡の存在が予想される。一連の発掘調査で検出された遺構はさほど多くないが、鮎川遺跡に当たる調査範囲の南部で中世に比定される土坑などが検出されている。

この地域は、調査事例が少なくこれまで実態が明らかでなかった。今回の一連の調査によって、土地利用に変遷を考える上で重要な情報を得ることができた。

図 53　調査地周辺航空写真（南上方から）

中野北遺跡（０９０４２）

（１）富田林市粟ヶ池町地内
（２）主要地方道美原太子線道路整備工事
（３）山田隆一

はじめに

調査地の東隣接地では、平成 16 年度調査で、7 世紀の埋没古墳等が確認されている。今回の調査地はその西側隣接地で、粟ヶ池東側の堤中央で南北の長さ約 16 m、幅は東西 12 ～ 13 m、面積 180㎡である。

調査成果

成果は 2 点に大別できる。東隣接地での平成 16 年度調査地から続く遺構面と旧地形を確認した事と、粟ヶ池堤の築造過程を確認した事である。

①平成 16 年度調査との関連と旧地形

前回調査地から続く遺構面は、今回の調査地点から急激に西に向かい低くなり、谷への地形変換点であることがわかった。遺構は溝 4 条が確認したが、前回は確認できた終末期古墳、飛鳥～奈良時代の土坑墓や土器棺からなる墓域が連続する状況ではない。なお溝一条の時期は中世なので、今回の粟ヶ池東堤はそれ以降の築造であることも判明した。

②粟ヶ池の堤

盛土土質の違いから、4 段階程度の堤が確認できた。最も古い堤（堤 4）は、地山の傾斜変換部分に築造され、その後の堤（堤 3・2・1）は池の内側に土盛りして改修する。各段階の堤の中にも数度の土盛り・改修の段階がある。築造時期は、堤 1 が現代、堤 2･3 が近代･近世、堤 4 が中世以降である。各段階の堤を横断して掘削された溝が確認された。

堤の東隣接地に存在したであろう水田・畑から、あるいはそこに水を供給する水路からの余水を池に流し込むための溝と考えられる。

まとめ

粟ヶ池は、石川流域最大のため池で、『日本書紀』仁徳天皇 13 年 10 月条の「和珥池」とする説がある。北に開く谷地形を利用した池なので、粟ヶ池築造時の堤は東西方向の北堤である。現在の北堤は式内社美具久留御魂神社の参道であり、当初の堤はこの下に埋没している可能性がある。今回の調査では、その築造時期は明らかにしえないが、将来の調査に期待しておきたい。

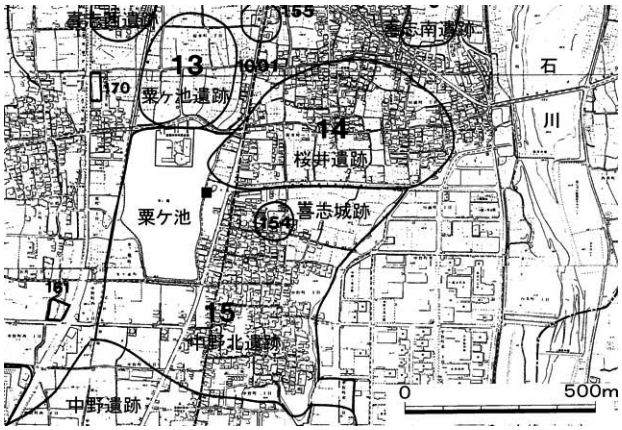


図 54　調査地位置図

図 55　堤 1・2・3（北から）

図 56　堤 4（西から）

図 57　堤 4 断面（北から）

小阪合遺跡（０９０４７）

（１）八尾市南小阪合町１丁目地内
（２）都市計画寝屋川流域下水道事業 竜華水みらいセンター送水管吐口築造工事
（３）岡本敏行

はじめに

小阪合遺跡は八尾市のほぼ中央部に位置する弥生時代から近世の複合遺跡である。今回の調査は、都市計画寝屋川流域下水道事業竜華水みらいセンター送水管吐口築造工事に伴う事前調査である。調査は小阪合ポンプ場の北側、楠根川の南側に挟まれた地点で、発進立坑部分を中心に立会部分も含めて約50㎡を調査した。

調査成果

調査地域は、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた南北方向に展開する低位沖積地上に位置する。調査地周辺の標高は T.P ＋ 9.3 m前後を測る。

調査の結果、本調査区は表土下 1.8 m前後まで盛土、撹乱土であり、また、北東部分は楠根川改修工事によりかなり撹乱を受けていた。そのため、いくつかの遺構面がすでに削平されていたと考えられるが、南側 T.P ＋ 7.5 m前後で灰色粘土の中世の遺物包含層が若干遺存し、T.P ＋ 7. 4 m前後で中世の遺構面を検出した（茶灰褐色粘質土の古墳時代前期の遺物包含層をベースとする）。検出した遺構は幅60cm、深さ 10cm の南北方向の溝のみであったが、遺物は出土しなかった。ただ、包含層の出土遺物から 12 世紀代と考えられる。

T.P ＋ 7.0 m前後で、淡黄灰色シルトをベース面とした古墳時代前期の遺構面を検出した。検出した遺構は北西隅で溝の東側肩部を検出した。幅は不明であるが、深さ 50cm 以上を測る。本溝は検出した位置から昭和 59 年度に（財）八尾市文化財調査研究会が調査した流域下水道等整備に伴う発掘調査で検出した SD-1 と同一の溝と考えられ、その南側延長部分に想定される。

出土遺物については、遺構に伴うものは確認できなかったが、包含層からコンテナ 1 箱分の遺物が出土した。遺物は中世包含層と古墳時代前期包含層出土遺物に大別でき、前者からは瓦器・土師器片が出土した。後者からは古式土師器・埴輪片が出土し、須恵器の出土は認められなかった。

まとめ

今回の調査では、中世前期と古墳時代前期の 2 面の遺構面を検出した。検出した遺構はともに溝のみであったが、周辺部に集落の存在が想定されるとともに、埴輪片がかなり出土していることから、あわせて古墳の存在が指摘できようか。

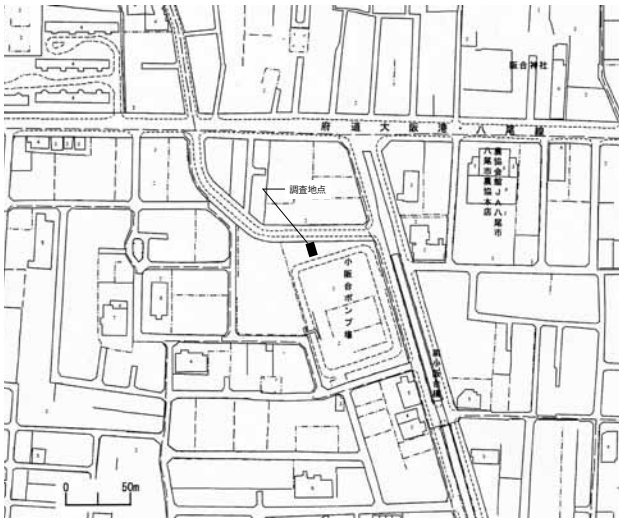


図 58　調査区位置図

図 59　古墳時代前期～中期遺構面全景（南から）

図 60　中世面南北溝（東から）

【資料紹介】

和泉寺跡出土文字瓦

１．はじめに

平成 21 年度に実施した和泉市和泉寺跡の発掘調査において、古代の文字瓦が出土した。和泉寺跡では初めての文字瓦として重要な資料であるため、ここで紹介する。調査の概要については和泉寺跡（09017）を参照されたい。

２．文字瓦について

文字瓦は計５点出土している。このうち４点（１～４）は 09-01 区第２面（図 61）の廃棄土坑およびその周辺から、１点（５）は 09-02 区の中世包含層から出土した。いずれも平瓦で、文字は凹面にヘラ状の工具により焼成前に記されている。共伴遺物の時期などより、８世紀前半に位置づけられる。

（１）「珎縣主廣足作」（図 62）文字は広端角部寄りに書かれる。２字目の「縣」はすり消したようになっており読みづらい。「作」の字はやや左にずらして記されている。

「珎」（珍）は、「茅渟」、「血沼」、「珍努」とも表記される。「珎縣主」は和泉郡の郡領氏族で、天平９年度（737）和泉監正税帳に「珎縣主倭麻呂」「珎縣主深麻呂」の名がそれぞれ少領と主帳としてみられる。「珎縣主廣足」の名は、この文字瓦が初出である。

「珎縣主」は、和泉国府跡周辺が本拠地と推定され、国府跡に隣接する和泉寺跡をその氏寺とする説も唱えられてきたが、「珎縣主」と和泉寺跡との関係を示す資料はこれまで見つかっていなかった。この文字瓦は、両者の関係を示す初の資料である。

（２）「坂合部連前　（図 63）　文字の下部を欠損しており、下に字が続くと考えられる。（１）同様、文字は広端角部寄りに書かれ、向きも同じである。

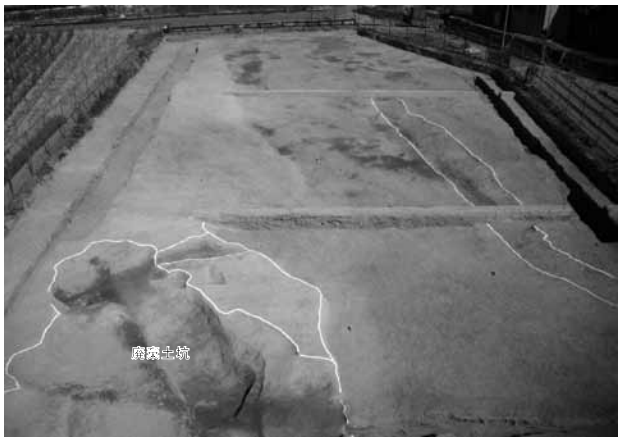


図 61　09-01 区第２面全景

「坂合」は、「境」とも表記される。「坂合部」は、外交あるいは国・郡の境界確定を職掌としていたとする説があり、畿内とその周辺に分布するが、本拠地は不明である。「坂合部連前」の名は、この文字瓦が初出である。

和泉国と「坂合部」との関係を示す資料はこれまで『新撰姓氏録』和泉国神別に「坂合部」がみられるのみであった。この文字瓦は、両者の関係を示す２例目の資料となる。

（３）「讃□（美カ）　（図 64）文字の下部を欠損する。２文字目は判然としないが、府中遺跡出土の「讃美塞」と記された文字瓦（註１）が参考になる。この文字瓦も平瓦で、文字は凹面にヘラ状の工具により焼成前に記されている。この資料と字体も似ることから、２文字目を「美」と推定でき、同じく「讃美塞」と書かれていた可能性も考えられる。

「讃美」あるいは「讃美塞」は人名と考えられるが、今のところ、府中遺跡出土文字瓦のほかにはみられない名である。僧侶、あるいは「塞」とつくのであれば優婆塞である可能性も考えられる。

（４）□（美カ）　（図 65）文字の上下とも欠損する。（３）の２文字目と字体が類似することから、この文字瓦も「美」と書かれていた可能性がある。

（５）「宮　（図 66）文字の下部を欠損する。「宮」一字のみが書かれた文字瓦の例はないことから、さらに下に文字が続くものと想定している。堺市大野寺跡では「宮道」という人名の書かれた文字瓦が出土していることから、この文字瓦についても人名の可能性が考えられる。

３．まとめ

以上のように、５点の文字瓦はすべて、人名あるいは人名の可能性のある文字が記されている。うち２点は古代氏族名であり、寺院の建立に直接的な関わりをもった氏族と考えられる。

和泉寺跡は、和泉国府跡に隣接するという立地などから重要な古代寺院と考えられてきたが、これまでのことろ寺院に直接関係する遺構の発見はなく、文献資料に記載もないことから、詳細は不明であった。そのような状況にある和泉寺跡で文字瓦が出土したことの意義は大きく、同時代史料であるという点でも重要な資料である。（土屋みづほ）

（註１）和泉市教育委員会 1980『府中遺跡発掘調査概要・Ⅲ』

図 62　文字瓦 1

図 63　文字瓦 2

図 64　文字瓦 3

図 65　文字瓦 4

図 66　文字瓦 5

【資料紹介】

「田中家（鴻池別家）文書」の概要調査

１．はじめに

大阪府に寄贈された貴重な美術工芸品の中に田中家文書がある。平成９年（1997）３月に当時大阪市内北畠に在住の田中和彦氏（現在は東京都江戸川区在住）より寄贈された古文書で、現在、堺市竹城台にある大阪府教育委員会文化財調査事務所において保管されている。

寄贈者のご好意による貴重な文化財を、できるだけ早いうちに調査し、そこから判明してくる研究成果をできるだけ速やかに公的なかたちで大勢の方々にお返ししていくというのは受贈者側の当然の責務であるけれども、このたび田中家文書を調査する機会に恵まれたので、その成果について報告させていただくことにする。

２．田中家文書と鴻池家文書

平成９年２月に田中和彦氏から北畠の「コーモ薬局」隣接の一部屋に古文書を集積しているので一度みてもらえないかとのお電話を頂戴し、それをうけて資料全体に係る予備調査を行なった。現地を訪れてみると、部屋には５箱の文書群が置かれてあり、中身を動かさないで概観したところ、田中豊次郎、田中隆次郎、田中隆三などのお名前を記した文書類のほかに、鴻池善右衛門、鴻池孫三郎、鴻池茂四郎など、著名な「鴻池家」に関連の名が随所に見出されることにも気づかされた。鴻池本家と別家田中家、そういった関係がふと頭の中をよぎった。

立会をしてくださった田中和彦氏のご説明を伺って、このことはいっそう確かなこととなった。「我が家は私の祖父　田中隆次郎まで代々鴻池に仕えており、本家から別家を与えられ、鴻池茂四郎と名のり、屋号を鴻茂（コーモ）と称していました。戦災で家屋は焼失しましたが、幸にも土蔵が焼失を免れ、古文書類は残ったのです。でも、なぜこのような多数の文書類が我が家にあったのかはよくわかりません」。薬局の名前「コーモ」が鴻池茂四郎をさすことや、田中家が鴻池本家と別家の関係にあったことなどが田中氏の証言によっていっそう明らかになったのである。

鴻池家については宮本又次氏が『鴻池善右衛門』（1958）などの著作であきらかにされているように 、大阪の大富豪で、慶長の初め（1596）に摂津国鴻池村において清酒の醸造で財をなして大坂に進出、寛永年間（1624 － 1644）には海運業を兼ねて発展、享保（1716 － 1736）以後は次第に両替業に専心、寛文 10 年（1670）には江戸幕府の公金の出納を取り扱う十人両替に加わり、掛屋、蔵元、御用商人となって巨富を築いた。そして享保 16 年（1731）以降の買米のための御用金、天保２年（1831）以降の勢田川・宇治川・淀川大浚 (おおさらえ) の冥加金、安政元年（1854）の国防費の献金、元治元年（1864）の軍資金徴発令に基づく出財、そして明治４年（1871）の廃藩置県による 76 藩との関わりの中での莫大な損害の発生にもかかわらず、「質素倹約」なる鴻池家風を守りながら、明治以降も鴻池は生き残り、明治 10 年（1877）の第十三国立銀行の設立、明治 22 年（1889）の日本生命保険会社の創立、明治 33 年（1900）の鴻池銀行から合名会社鴻池銀行への拡充など、その大きな国家的もしくは社会的貢献ぶりはよく知られ、高く評価されているところである。

このような大河「鴻池本家」の流れ（「鴻池家文書」は豪商鴻池善右衛門家の文書で、鴻池新田会所、大阪大学等で所蔵）の中での別家「田中家」の文書であるから、そのもつ意味はきわめて大きく、近世から近代の歴史を明らかにしていく上できわめて貴重な文書であろうと予測されるのである。

３．田中家文書の概要

寄贈された田中家文書は全体で５箱に収納されている。田中隆三氏自身による整理や今までの調査によれば、総点数は約 4100 点を数えるとされる。1 号箱には縁談婚礼祝儀文書や銀行関係文書、2 号箱には婚礼安産出生祝儀文書や奉公人請状関係文書、第３号箱には普請用払帳や経営関係文書、4 号箱には葬式法事関係文書、5 号箱には万留帳や大福帳関連文書が収納されている。

平成 21 年度の調査では１号箱～２号箱の文書類を中心にそれらを年代順に配列し、暫定的な編年表を作成するとともに、それら文書自体のもつ社会的歴史的意味あいを把握するよう努めた。

第１号箱の中で見出される文書には、寛政元年（1789）の「月牌請取状」、寛政８年（1796）の「儀助婚礼ニ付祝儀遣ス」、文化 12 年（1815）の「忠三郎娘まつ縁談相極リニ付祝儀」、天保９年（1838）の「別宅婚礼定式」など、身内に関わる文書類も顕著であるが、ここで特に社会的意味合いをもつ文書として紹介しておきたいのは慶応４年（1868）の「宗門御改帳」２冊（図 67）である。

「宗門御改帳」、本来は「宗門改め」と「人別改め」

を複合した「宗門人別改帳」の作成は、基本的にはキリシタン禁止政策の一環として寛文５年（1665）に諸藩に命じられたが、寛文 11 年（1671）以降毎年作成されるようになり、諸藩で取り扱いにも相異があったことが知られている。

ここに掲載した田中家所蔵の「宗門御改帳」は江戸幕府最後のものである点で貴重であるが、表紙には「慶応四年戊辰（年）三月」「上渋谷村」と記されている。「上渋谷村」とは摂津国豊島郡上渋谷村（池田市）のことで田中隆次郎氏の出身地である。同年同月の「宗門御改帳」が２冊存在しているが、それは何故か。それは宗門帳が「宗派ごとに分冊される」場合があるからであり、一方は「一向宗」（図 68）のもの、他方は「禅宗」（図 69）のものであるからである。前者には一向宗・教善寺の黒丸印（直径 2.7 ㎝）が、後者には禅宗・自性院の方円の黒印（直径２㎝）が押捺されている。通常「宗門帳」については「大坂・京都・奈良などの都市や一部の藩では年齢記載がない」とされるが、摂津国の本文書では年齢記載がされている点に注意をはらっておきたい。

１号箱の文書でもうひとつ紹介しておきたいのは「鴻池銀行」関係の文書である。先ほどもふれたように、鴻池は明治 10 年（1877）に「第十三国立銀行」を設立（資本金 25 万円）、明治 30 年（1897）には個人経営の「鴻池銀行」を資本金 50 万円で設立、そして明治 33 年（1900）12 月 1 日には資本金 200 万円で「合名会社鴻池銀行」を立ち上げている。そしてこの間の事情を示唆しているのが明治 32 年（1899）の「鴻池銀行」理事蘆田安三郎の月俸辞令（図 70）および明治 33 年（1900）の「合名会社鴻池銀行」小口当座預金通帳（図 71）の二資料である。前者には毛筆手書の辞令に「鴻池銀行印章」（一辺 3cm の角印）、後者には印刷された通帳に「合名会社鴻池銀行之印章」（一辺 3cm の角印）、「合名会社鴻池銀行業務担当社員之印」（径 1.5cm 厚縁丸印：鴻池善右衛門署名）、「合名会社鴻池銀行支配人之印」（径 1.4cm 薄縁丸印：芦田〔原文ノママ〕順三郎署名）が各々朱印で押捺されている。

その他、明治 17 年（1884）の「国民兵入籍届之扣」や明治 19 年（1886）の「明治 18 年洪水罹災者救恤金差出につき感状」なども、時代の趨勢と鴻池の罹災者への温情を示していて興味深い。

第２号箱の中には安永３年（1774）の「鴻池小八別宅并婚礼祝儀一件」、享和元年（1801）の「御蔵割符紙組合加入証文」、文化６年（1809）の「奉公人請状之事」、文政２年（1819）の「茂四郎腰元お関縁付一件」、天保 10 年（1839）の「預り申銀子之事」、嘉永２年（1849）の「鴻池善右衛門あて奉公一件」文書（図 72）などが含まれている。これらの文書の中には平野屋や天王寺屋など大坂を代表する商人も登場しており、金銭や人の出入りについては、これらが時の経済を如実に反映しているがゆえに注意深い読みがもとめられる。この点、宝

図 67 「宗門御改帳」上渋谷村 ２冊

図 68 「宗門御改帳」一向宗 檀那寺 教善寺

図 69 「宗門御改帳」禅宗 檀那寺 自性院

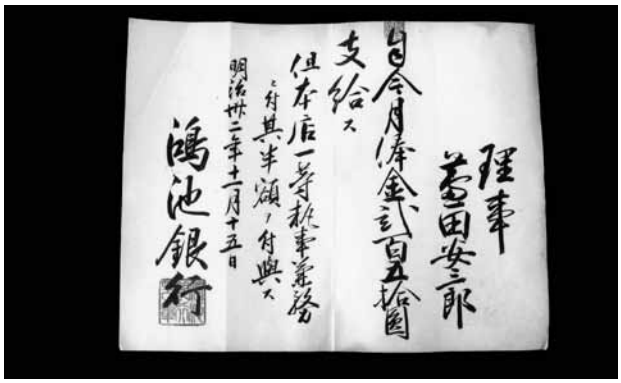


図 70 「鴻池銀行」理事 蘆田安三郎 辞令

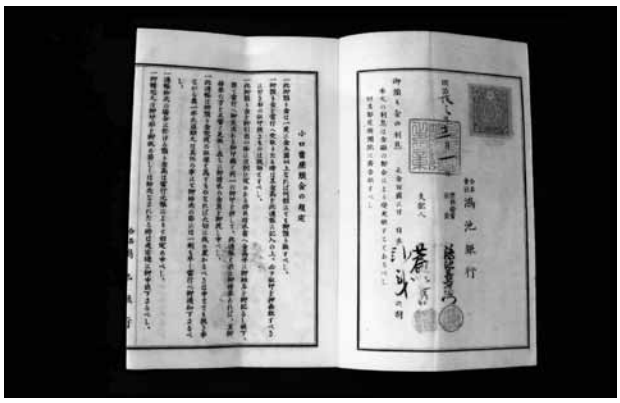


図 71 「合名会社鴻池銀行」小口当座預金通帳

図 73 「見舞到来もの飛加ゑ」［鴻池茂四郎］ほか

暦３年（1753）に京都の綾小路烏丸で生まれ、安永３年（1774）に鴻池本家に転勤、安永４年（1775）に鴻池別家の草間家に入り、鴻池屋伊助を名乗ることを許された草間直方（1753 － 1831）の『三貨図彙』全 44 冊（1815）も参考になろう（拙著「『府立大阪博物場』以前の貨幣学」〔『府立大阪博物場旧蔵貨幣図録』第一冊〕1998）。

４．天保期「鴻池家」の実像と「大塩平八郎の乱」

以上、「田中家（鴻池別家）文書」の寄贈のいきさつと「鴻池家文書」との関係、田中家文書の１号箱と２号箱の概要を説明してきた。

これら以外の資料として、天保８年（1837）酉２月の「見舞到来もの飛加ゑ」（鴻池茂四郎）、同年３月の「出火諸入用小払帳」、同じく「普請用小払帳」（以上３点は図 73）、そして「天保八丁酉年三月　普請用小払帳　鴻池茂四郎」（図 74）なども見出される。これらの文書は普通の読みでは単なる「鴻池家」の不幸な火災と見舞いと普請についての文書にとどまるのであろうが、しかしこの文書は、実は天保８年２月 19 日の朝に始まり、その日の夕刻に鎮圧された「大塩平八郎の乱」と密接に関連していると思われる。

岡本良一氏による「大塩平八郎の乱」（『国史大辞典』1980）の解説によれば「天保七年（1836）の大飢饉は大阪市中にも餓死者が続出するほどの惨状を現出したが、市政の最高責任者（も）市中の豪商たちも、飢饉の惨状を目前にしながら、相変わらず豪奢な生活をおくり、さらには米の買占めをしたりして、米価のつりあげを助長していた。これに対して大塩平八郎は町奉行に何度か救済策を上申し、また豪商たちに義捐金の醵出をすすめたりしたのであるが、すべては無駄であった。万策つきた平八郎はついにこれら姦吏・貪商たちに天誅を加えて窮民を救おうと決意し、ひそかに門下の与力・同心および近在の富農二十数名と相謀り、天保八年二月十九日、天満の居邸に兵を挙げた」「（平八郎は）朝八時ごろ自邸に火をかけて行動を開始」「一党は『救民』の旗印をかかげて、大筒を引きながら進撃し、手あたり次第に大筒をぶっ放したり炮碌玉を投げつけたりして、天満一帯を火の海にしながら正午ごろ船場に進出した」「彼らは鴻池屋その他の豪商を軒並みに襲って金穀を路上に散じ、窮民のとるに任せながら進んだ」「このころようやく両町奉行は玉造定番らの加勢を得て鎮圧に乗り出してき」「烏合の衆にすぎない大塩方は、この鎮圧軍の出動のまえに、わずか二度の小規模な砲撃戦を行なっただけで、その日の夕刻前には完全に潰滅してしまった云々」とある。

図 72 「鴻池善右衛門あて奉公一件」文書

鴻池茂四郎名の文書はこの年二月以降の具体的な動きを知るのに有用である。と同時に「天保４年（1833）　鴻池善右衛門外数名連合して救恤基金として銀千貫目余を出す」「天保５年（1834）　諸民困窮。鴻池は多量の米と銭二千七百貫を施す」「天保７年（1836）　米価高騰、細民困窮甚し。鴻池、銭千八百貫文を施す」といった歴史的な文脈に着目する時、翌年の「天保８年（1837）　大塩の乱にて鴻池家全焼す（二月）」は理屈にあわない災難であり、「鴻池家」を「貪商」と呼ぶのは本質に照らしてあたっていないように思われる。偏頗なき、公正な吟味が必要である。

図74 「普請用小払帳」［鴻池茂四郎］

引き続き、鴻池家文書を補完する貴重な「田中家文書」の調査をすすめていきたいと思う。

（久米雅雄）

【活動報告】

普及・公開事業－府立博物館事業との連携－

はじめに

文化財調査事務所では、従来から実施してきた普及・公開事業と別に、平成 20 年度から府立博物館との連携事業を展開している。内容としては、展示や講座・講演会等に府所蔵の考古資料と本課の人材をより幅広く活用していくための媒体として府立博物館を使うことであり、公の施設の見直しで運営環境が厳しくなってきている府立博物館を支援する目的も併せ持つ。

平成 20 年度は初年度でもあり、年度途中から調整しながらの事業実施だったため、弥生文化・近つ飛鳥両博物館での小テーマ展示や、セミナーの開催と、「でかける博物館」事業に位置づけられた出前授業など、限られた実施にとどまった。

平成 21 年度に実施した事業

21 年度は調査第一・第二両グループに調整担当総括を置き、前年度から引き続き実施する事業に加えて、調査現場を活用した児童・生徒向けの体験型事業や市町村関係の各種のイベントへの出展も早い段階から調整した結果、別表に示したように 40 件の多彩な事業を実施できた。小テーマ展示のように個別の入館者数が不明なものを除いたのべ参加者数は 8,355 名、のべ担当職員数は 169 名である。

以下、大くくりした事業ごとに概要をまとめる。

展示とその関連事業

弥生文化博物館ではテーマ展示と考古学セミナーを 2 回ずつ実施した。近つ飛鳥博物館ではコーナー展示 2 回、夏季企画陳列 1 回と土曜講座を 3 回、関連事業として「こども古墳見学会」を 1 回実施した。特に、夏季企画陳列は「大阪の古墳」と題し、ここ 10 数年の間に府教委が調査を実施した古墳の出土品や写真資料を一堂に陳列したもので、3 週間ほどの期間であったが入館者には好評だった。

講座・講演会等

弥生文化・近つ飛鳥両博物館での講座以外に、狭山池博物館や市町村、各種団体等が企画・開催した講座等に講師を 15 回派遣した。中には府の土木事務所や下水道事務所の職員研修も含まれている。

イベントへの出展

市町村や府民・市民の手作りイベント 3 回に府立博物館が「でかける博物館」として出展する際、展示品や解説のための職員を派遣した。

出前授業・体験学習・発掘現場の活用

府立高校の出前授業 2 件 14 コマに講師を派遣した。特に、泉大津高校の情報科学の授業は、今後コースとして確立していくための準備段階として重要なものであった。

また、中学校・高校の職業体験 2 件を文化財調査事務所で受け入れ実施した。　現場では現地公開を 2 回、移築古墳の説明会を 1 回、小学生の社会科の授業を 1 回現地で行なった。

そのほかに、ジャイカが実施した外国人研修生向けの博物館コースの研修を文化財調査事務所や府教委の発掘現場等で受け入れた。

まとめ

21 年度はさまざまな普及公開事業を実施でき、参加者や学校関係者からは高い評価をいただいた。一方、博物館との連携を第一に考えたため、発掘現場や調査事務所を「場」として活用するなど文化財調査事務所独自の取り組みが比較的少なかったと思われる。そうした課題をふまえて 22 年度も、より良質な事業を府民に提供していけるようにしたいと考える。　（広瀬雅信）

図 75　狭山池博物館講演会風景

図 76　土器作り出前授業風景

表５　平成 21 年度府立博物館連携事業一覧（一部普及啓発事業と重なる）

	事　　業　　名	実施年月日	実　施　場　所	位置づけ	内　　容	対 象	参加者数
1	弥生プラザ展示「倭國大乱の一断章―南河内の高地性集落と東山遺跡―」	21.1.6 ～ 8.23	弥生文化博物館	府教委所蔵考古資料展示	高地性集落として有名な河南町所在東山遺跡の出土遺物を展示し、弥生後期の南河内地域の特色を見る。	一般	
2	古代寺院を彩る―舎利と堂塔の荘厳―	21.3.19 ～ 4.5	近つ飛鳥博物館	府教委所蔵考古資料展示	鳥坂寺跡、新堂廃寺、衣縫廃寺などから出土した舎利荘厳具、堂内の装飾品などの遺物を展示	一般	
3	土曜講座「いま、三角縁神獣鏡から言えること」	21.4.25	近つ飛鳥博物館	講師派遣	図像や型式など、三角縁神獣鏡に関する最新の研究成果をわかりやすく解説	一般	60 名
4	池上・曽根遺跡史跡ツアー	21.5.4・5.5	弥生文化博物館、池上・曽根史跡公園・泉大津市立弥生学習館	でかける博物館	史跡公園のガイドツアー、復元竪穴住居で煙を立てての居心地体験、サヌカイトの切れ味体験、大形建物の内部見学など	一般（親子）	80 名
5	泉大津高校“情報”授業	21.6.9・10・15、6.22・23、7.1・2、10.14・22、11.9・10・17・18	府立泉大津高校	でかける博物館	高校所蔵の考古資料を活用したデータベース作成を補助するため、遺物の見方や写真撮影の方法、土器製作などの体験授業を実施	高校 2 年生	15 名
6	南部流域下水道事務所文化財説明会	21.6.24	南部流域下水道事務所大和川工区（今池水みらいセンター）	職員研修の講師派遣	発掘調査と遺物整理の仕組み、大和川今池遺跡の調査成果	府職員	40 名
7	「大阪の古墳―大阪府教育委員会の最近の調査から―」	21.7.11 ～ 8.2	近つ飛鳥博物館	夏の企画陳列	最近 10 数年の間に府教委が調査した古墳の調査成果を一堂に展示。16 遺跡、百点以上の遺物と多数の写真パネル	一般	1,863 名
8	土曜講座「大阪の古墳―大阪府教育委員会の最近の調査から―」	21.7.25	近つ飛鳥博物館	講師派遣	上記企画陳列の詳しい解説。展示解説も	一般	63 名
9	聖徳太子の歩いた道―竹内街道周辺の古墳―	21.7.26	太子町・河南町	子ども古墳見学会	叡福寺、聖徳太子墓を起点に、用明、推古各天皇陵と、二子塚、葉室古墳群など終末期の古墳をめぐり、近つ飛鳥博物館で展示解説	親子	12 名
10	インターンシップ研修	21.8.3 ～ 8.5	文化財調査事務所・泉北考古資料館	調査事務所の活用	府立春日丘、堺東高校生の職業体験（遺物整理）	高校 1・2 年生	3 名
11	弥生プラザ展示「おくるうつわ―府中遺跡 3 号墓に供えられた弥生土器―」	21.8.26 ～ 22.3 末	弥生文化博物館	府教委所蔵考古資料展示	府道和泉中央線建設に先立つ府中遺跡の調査で発見した方形周溝墓群のうち 3 号墓から出土した特徴ある土器の一群を展示	一般	
12	考古学講演会「堺環濠都市遺跡の発掘調査」	21.8.28	堺市立中央図書館	でかける博物館	市立図書館の事業に講師を派遣	一般	52 名
13	大阪狭山市熟年大学	21.9.28・10.5	大阪狭山市役所	でかける博物館	連続している考古学講座の中の2コマを、地域に関連した実物資料を手にとって見てもらう型式にし、理解を深めてもらう	熟年市民	30 名
14	富田林土木事務所文化財説明会	21.10.22	狭山池博物館	都市整備部新人研修	発掘調査の仕組みと文化財の活用、松原市高木遺跡の発掘調査成果、狭山池慶長の改修にみる先端土木技術	府職員	20 名
15	かなんフェス	21.11.7	近つ飛鳥博物館、風土記の丘	でかける博物館	館長講演会、風土記の丘でのイベント	一般	4,000 名
16	豊能町民祭	21.11.8	豊能町立ふれあい広場	でかける博物館	拓本体験、イベントの補助	一般	148 名
17	安松田遺跡現地公開	21.11.12 ～ 14	調査現場	調査成果の公開	泉佐野市府営羽倉崎住宅建て替えに伴う調査現場の公開	一般	135 名
18	池上・曽根遺跡史跡ツアー	21.11.14・15	弥生文化博物館、池上・曽根史跡公園・泉大津市立弥生学習館	でかける博物館	史跡公園のガイドツアー、復元竪穴住居で煙を立てての居心地体験、サヌカイトの切れ味体験、大形建物の内部見学など	一般（親子）	50 名
19	みんなでつくるなわてよっといでまつり	21.11.15	市立四條畷小学校	でかける博物館	体育館での電子紙芝居、テントでのワークショップ	親子	350 名
20	考古学講演会「河内の今昔物語」	21.11.15	大東市立中央図書館	でかける博物館	図書館主催の講座	一般	50 名
21	海外研修生研修	21.11.16 ～ 20	調査事務所、泉北資料館、弥生博物館、倉治遺跡、和泉寺跡現場、他	講師派遣	ジャイカ博物館学集中コース個別研修「考古資料の発掘と保存管理」	海外研究者	5 名
22	和泉寺跡現地公開	21.11.28・30・12.1	調査現場	調査成果の公開	都計道路建設に伴う調査現場の公開	一般	132 名
23	交野市立倉治小学校発掘見学会	21.11.30	倉治遺跡発掘現場	でかける博物館	校外学習の一環として、発掘調査現場で歴史の学習を行なう	小学 6 年生	88 名
24	岸和田高校出前授業	21.12.4	府立岸和田高校	でかける博物館	漢書と倭国の話	高校 2 年生	40 名
25	堺考古学・歴史探訪講座「堺環濠都市遺跡の発掘調査について」	21.12.11	堺市立女性センター	でかける博物館	堺女性大学の講座に講師を派遣	一般	24 名
26	大町遺跡現地公開	22.1.16	調査現場	調査成果の公開	岸和田市府営岸和田大町住宅建て替えに伴う調査現場の公開	一般	197 名
27	考古学講演会「府中遺跡の方形周溝墓」	22.1.17	弥生文化博物館	講師派遣	弥生プラザ展示関連の講演会	一般	35 名
28	職場体験	22.1.28 ～ 29	文化財調査事務所・泉北考古資料館	調査事務所の活用	堺市立赤坂台中学生の職場体験	中学 2 年生	4 名
29	耳の不自由な方対象の考古学講座	22.2.3	四條畷市民会館	でかける博物館	「河内馬飼いの話」手話通訳付	耳の不自由な方	20 名
30	モックルいきいき大学「巨大古墳時代の大阪 ―世界最大の墳墓はなぜつくられたのか―」	22.2.4	河内長野市立市民交流センター	でかける博物館	「考古学は好古学」という講座の 1 コマ	一般	152 名
31	三島の交通歴史「古代・中世の道の変遷」	22.2.4	島本町ふれあいセンター	でかける博物館	おおさかふみんネット生涯学習広域講座　三島ブロック「我が町再発見　パート 6」	一般	148 名
32	「大阪の魚文化」講座「河内湾の変貌と先史時代の漁撈」	22.2.7	弥生文化博物館	講師派遣	大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センターとの共同企画	一般	115 名
33	考古学講演会「南北朝内乱と楠木正行」	22.2.14	東大阪市立埋蔵文化財センター	でかける博物館	東大阪市立埋蔵文化財センター事業に講師を派遣	一般女性	120 名
34	「西除川右岸の水田開発－松原市堀遺跡の調査から－」	22.2.20	府立狭山池博物館	でかける博物館	21 年度第 1 回狭山池博物館歴史セミナー	一般	40 名
35	「難波大道東方の古代集落―松原市高木遺跡の調査から―」	22.2.28	府立狭山池博物館	でかける博物館	21 年度第 2 回狭山池博物館歴史セミナー	一般	25 名
36	「古代丹比野の土地開発―三宅西・池内・大和川今池遺跡の調査から―」	22.3.13	府立狭山池博物館	でかける博物館	21 年度第 3 回狭山池博物館歴史セミナー	一般	36 名
37	衣ヶ谷古墳現地説明会	22.3.7	府営蜻蛉池公園	調査成果の公開	衣ヶ谷古墳を岸和田市トンボ池公園内に移築復元し、公開時に調査成果を報告	一般	117 名
38	考古学講演会「河内の今昔物語　パート 2」	22.3.27	大東市立中央図書館	でかける博物館	図書館主催の講座	一般	50 名
39	「王権と馬飼―四條畷市蔀屋北遺跡の調査成果―」	22.3.20 ～ 4.9	近つ飛鳥博物館	府教委所蔵考古資料展示	報告書刊行に伴い、重要遺物を展示	一般	
40	土曜講座「王権と馬飼―四條畷市蔀屋北遺跡の調査成果を中心に―」	22.3.27	近つ飛鳥博物館	講師派遣	初期大和政権に馬が果たした役割を考古資料から考える	一般	35 名

平成 21 年度普及啓発・広報事業及び資料

1．普及啓発事業（一部博物館連携事業と重なる）

1-1 検討会

第 1 回検討会　2009 年 5 月 13 日（水）
「高木遺跡の調査成果について」　服部文章
第 2 回検討会　2009 年 6 月 10 日（水）
「八尾市久宝寺遺跡の調査」　松岡良憲
第 3 回検討会　2009 年 7 月 8 日（水）
「府中遺跡出土の石皿について」　土屋みづほ
第 4 回検討会　2009 年 9 月 9 日（水）
「真っ黒けの古墳つくり」　西口陽一
第 5 回検討会　2009 年 10 月 14 日（水）
「ミヤケ北遺跡・甲田南遺跡」　山田隆一
第 6 回検討会　2009 年 11 月 12 日（水）
「六道銭の話－ 1615 年大坂城を定点として－」
小林義孝
第 7 回検討会　2009 年 12 月 9 日（水）
「古代日韓の天然材料を用いた土構造物の補強と保護」　小山田宏一
第 8 回検討会　2010 年 1 月 13 日（水）
「蔀屋北遺跡の発掘調査成果について」　岡田　賢
第 9 回検討会　2010 年 2 月 10 日（水）
「36 ＋ 1 年の軌跡（1）」　玉井　功
第 10 回検討会 2010 年 3 月 10 日（水）
「36 ＋ 1 年の軌跡（2）」　玉井　功

1-2 発掘調査の現地説明会等

安松田遺跡現地公開
日時　2009 年 11 月 28・29 日
参加者数　135 名

和泉寺跡現地公開
日時　2009 年 11 月 12 ～ 14 日
参加者数　132 名

図 77　安松田遺跡現地公開風景

図 78　倉治遺跡現地公開における小学生への説明風景

図 79　大町遺跡現地公開風景

倉治遺跡現地公開（小学生対象）
日時　2009 年 11 月 30 日　参加者数　88 名

大町遺跡現地公開
日時　2010 年 1 月 16 日　参加者数　197 名

衣ヶ谷古墳現地説明会
日時　2010 年 3 月 7 日　参加者数　117 名

1-3 中学生の職場体験学習

2010 年 1 月 28 日 (木) ～ 2010 年 1 月 29 日 (金) 堺市立赤坂台中学校 (4 人) を受入れ、遺物整理作業 (土器洗浄・復元・拓本等) と須恵器の展示作業の体験指導。

1-4 高校生のインターンシップの受け入れ

2009 年 8 月 3 日 (月) ～ 2009 年 8 月 5 日 (水) 春日丘高校 1 人　堺東高校 2 人を受け入れ、埋蔵文化財の調査 (測量) と遺物整理作業 (土器洗浄・復元・拓本等) の体験学習を実施した。

1-5 所蔵資料の展示

(1) 泉北考古資料館

■コレクション展「注ぐスタイル」

会 期：2009 年 3 月 18 日（日）～ 2009 年 7 月 12 日（日）

所蔵する資料の中から、注ぐ器にスポットを当て、企画展示「須恵器にみる酒器」と優品展示「急須」（「大阪博物場」（1875 年設立）の陶磁器コレクション：大阪府指定有形文化財）を公開。

・「須恵器に見る酒器」

展示品：樽形はそう 1 点（堺市深田橋遺跡）、はそう 2 点（堺市陶邑窯跡群 TK87 号窯・40- Ⅰ号窯）・提瓶 3 点（TG 支群窯・TG41 号窯・TG10- Ⅰ号窯）・平 瓶 5 点（TK43- Ⅰ・TK73・TG222- Ⅰ・TG70）計 11 点

・「急須」

展示品：黄交趾五霊文急須・刷毛目芋頭急須・色絵飲中八遷詩文急須・青磁急須・色絵金彩百唐子文急須・紫交趾楼閣山水麒麟文急須・緑交趾粟鼠文急須 計 7 点

(2) 府庁別館　文化財展示

府庁別館 1 階と 8 階のロビーに設けられた文化財展示コーナーに埋蔵文化財を展示した。

■「須恵器－炎がつくりだした形－」

堺市陶邑窯跡群で焼かれた須恵器を紹介。

会 期：2008 年 4 月 14 日（月）～ 2009 年 9 月 10 日（木）

展示品：高杯 3 点（堺市陶邑窯跡群 TG64 号窯・KM12 号窯・TG207 号窯）、蓋杯 3 点（TG207 号窯・TG35 号窯）・壺 1 点（TG207 号窯）・提瓶 1 点（TG38- Ⅱ号窯）・杯身 4 点（MT208 号窯・TG68 号窯・TG70 号窯・TG215 号窯）・広口壺（ON151 号窯）・長頸壺（TG64 号窯）・短頸壺 1 点（TK235- Ⅱ）・窯体 2 点（TK-230- Ⅱ）　計 17 点

図 80　府庁別館 8 階ロビー展示状況

(3) 泉大津収蔵庫（織物館）　文化財展示

会 期：2009 年 9 月 16 日（水）～継続展示

■「須恵器－炎がつくりだした形－」

堺市陶邑窯跡群で焼かれた須恵器を紹介。

高杯 2 点（堺市陶邑窯跡群 TG64 号窯・KM12 号窯）・平瓶 1 点（TG64 号窯）・短頸壺・蓋（TK235- Ⅱ）・広口壺（ON151 号窯）・蓋杯 3 点（TG35 号窯）・杯身 1 点（TG68 号窯）・窯体 1 点（TK-230- Ⅱ）

(4) 大阪府立弥生文化博物館　弥生プラザ展示

昨年に続き、府立博物館活性化事業の一環として、常設展示室「弥生プラザ」で所蔵資料を展示。「考古学セミナー」に講師を派遣した。

■第 3 回「おくるうつわ－府中遺跡 3 号墓に供えられた弥生土器－」

会 期：2009 年 9 月 26 日（土）～ 2010 年 3 月 31 日（水）

展示品：弥生土器 16 点（壺 7・甕 3・台付鉢 2・高杯 2・水差形土器 2）　計 16 点

■考古学セミナー　2010 年 1 月 17 日（日）

「府中遺跡の方形周溝墓」　阿部幸一

(5) 大阪府立近つ飛鳥博物館　スポット展示

昨年に続き、府立博物館活性化事業の一環として、スポット展示を実施し、「土曜講座」に講師を派遣した。

■「王権と馬飼－四條畷市蔀屋北遺跡の調査成果－」

会 期：2010 年 3 月 20 日 (土）～ 2010 年 4 月 9 日（水）

展示品：木製品 9 点（ササラ状木製品・剣馬骨 1 点、角製品 2 点（柄頭・鞘尻）、当て具 1 点、鉄製品 4 点（刀子・鎌・袋状鉄斧・鏃など）、玉類 2 点（ヒスイ製勾玉・メノウ製勾玉）、土器 11 点（韓式土器・製塩土器・陶質土器など）　計 30 点

■土曜講座　2010 年 3 月 27 日（土）

「王権と馬飼－四條畷市蔀屋北遺跡の調査成果を中心に－」　宮崎泰史

(6) その他の展示

大阪府立近つ飛鳥博物館の夏季企画陳列として本文化財調査事務所が中心となり、大阪府教育委員会がここ 10 数年間に調査を実施した古墳の出土品や写真パネル等を「大阪の古墳」展と題して一堂に陳列した。あわせて同展示に関連した土曜講座に講師を派遣するとともに、親子を対象とした近つ飛鳥博物館周辺の古墳見学会を催した。

■「大阪の古墳－大阪府教育委員会の最近の調査から－」

会 期：2009 年 7 月 11 日 (土）～ 2009 年 8 月 2 日 (日）
展示対象古墳：総持寺遺跡・みかん山古墳群・桑原西古墳群・久宝寺遺跡・崇禅寺遺跡・梶遺跡・林遺跡・初田 1 号墳・唐櫃山古墳・陶器千塚 93 号墳・中野北遺跡・寛弘寺 1 号墳・銭塚古墳・衣ヶ谷古墳・加納古墳群・平石古墳群

■土曜講座　2009 年 7 月 25 日（土）
「大阪の古墳－大阪府教育委員会の最近の調査から－」　橋本高明

■古墳見学会　2009 年 7 月 26 日（日）
「聖徳太子の歩いた道－竹内街道周辺の古墳－」

2．所蔵資料

2-1 埋蔵文化財（整理箱数）

(1) 東大阪収蔵庫（東大阪市）	70,500 箱
(2) 北部北収蔵庫（摂津市）	3,276 箱
(3) 文化財調査事務所（堺市南区）	6,700 箱
(4) 泉北収蔵庫（高石市）	38,800 箱
(5) 泉大津収蔵庫（泉大津市）	14,500 箱
(6) 泉佐野収蔵庫（泉佐野市）	16,699 箱
	合計 150,475 箱

これまでの泉北考古資料（堺市南区）・大井収蔵庫（藤井寺市）・志紀収蔵庫（八尾市）については、平成 21 年度で廃止・撤去。それに伴い新たに泉大津収蔵庫と泉佐野収蔵庫を加える。

図 81　東大阪収蔵庫外観

2-2 民俗文化財（文化財調査事務所）

(1) 谷口家資料	22 点
(2) 辻家資料	13 点
(3) 守田コレクション	20 点
(4) 上平家資料	15 点
(5) 畑野家資料	2 点
(6) 三宅家資料	一括
(7) 大恩寺資料	一括
(8) 前西家資料	2 件

2-3 美術工芸品

・田中家文書	一括(5 箱 ／ 4,100 点)

2-4 写真・図面その他の資料

(1) 図面資料	4,708 ケース
(2) 写真資料	7,315 ケース
(3) 台帳	
(4) パネル	778 点

2-5 図書

・図書	43,567 冊

図 82　泉北収蔵庫収納状況

═══ 平成 21 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧 ═══

大阪府埋蔵文化財調査報告

２００９－１　『堀遺跡』
２００９－２　『大町遺跡Ⅱ』
２００９－３　『蔀屋北遺跡Ⅰ』
２００９－４　『九頭神遺跡』
２００９－５　『若宮遺跡』
２００９－６　『高向神社南遺跡』
２００９－７　『寺田遺跡』
２００９－８　『安威城跡・Ⅱ』
２００９－９　『衣ヶ谷古墳』
２００９－10　『田尻遺跡』
２００９－11　『招提中町遺跡Ⅲ』
２００９－12　『福井遺跡Ⅲ』
２００９－13　『千里丘遺跡Ⅱ』
２００９－14　『桑原遺跡Ⅱ』

概要報告

『山城廃寺発掘調査概要』

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 13』

平成 21 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

実物資料・複製資料長期貸出

	申 請 者	遺 跡	資 料 内 容 ・ 点 数	目的（展示内容等）
1	国立歴史民俗博物館	池上曽根遺跡	石庖丁 3 点 計 3 点	総合展示 『稲と倭人』
2	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	冑金 1 点 鋤 1 点 計 2 点	常設展示 『中世の土地開発と狭山池』
3	大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）	大坂城跡	美濃焼小鉢 1 点・天目茶碗 1 点・鉄釉丸椀 1 点・鉄釉皿 2 点・灰釉折縁皿 1 点・灰釉菊皿1点・灰釉皿1点・志野向付1点・皿1点・中国製白磁1点・青花皿1点・ベトナム製色絵皿1点・金箔瓦4点 計 17 点	常設展示 （リフレッシュコーナー）
4	大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 萱振遺跡 崇禅寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器甕 1 点 土師器 5 点（直口壺 2・小形丸底壺 1・高杯 1・台付甕 1） 土師器甕 1 点 須恵器 9 点（杯身 1・有蓋高杯蓋 3・有蓋高杯身 3・はそう 1・壺 1） 須恵器片コンテナ 1 箱 計 17 点（コンテナ数を含む）	授業・展示
5	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦 1 点・飾瓦 1 点・軒平瓦 1 点・文字入り平瓦 1 点・軒丸瓦 1 点・天目茶碗 1 点・須恵器短頸壺 1 点・分銅 1 点・白磁香炉 1 点・美濃水滴 1 点・鳥文青花大皿 1 点・鍔 1 点・笄 1 点 計 13 点	授業・展示
6	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦 10 点・軒平瓦 8 点・斧瓦 3 点・雁振瓦 1 点・瓦器椀 7 点・土師皿 11 点・すり鉢 1 点・土師質羽釜 1 点・陶磁器 5 点・硯 1 点 計 48 点	授業・展示
7	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺 2 点、須恵器 15 点（杯 5・高杯 3・碗 1・甕 4・こね鉢 1・その他 1）、韓式系土器甕 1 点、土師器 13 点（壺 3・甕 2・高杯 3・碗 1・皿 4）、瓦器 34 点（碗 31・皿 1・火鉢 1・釜 1）、磁器碗 1 点、砥石 1 点、木製品 5 点（下駄 2、箸 2、人形首 1）、土錘 1 点、キセル 1 点、加工骨 1 点 計 75 点	授業・展示
8	大阪府立四条畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪 3 点、須恵器 3 点（短頸壺 1・甕 1・提瓶 1） 弥生土器 32 点（壺 7・長頸壺 1・無頸壺 1・無頸壺蓋 1・鉢 3・鉢蓋 1・甕 7・台付鉢 2・台付甕 1・器台 3・高杯 3・手焙り形土器 2）、黒色土器椀 1 点、土師器壺 2 点、須恵器 7 点（平瓶 1・無蓋高杯 1・蓋杯蓋 1・蓋杯杯身 2・はそう 1・壺 1）、砥石 4 点、石鏃 5 点 計 57 点	授業・展示
9	大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器壺1・長頸壺1・無頸1・壺蓋1、土師器壺1、須恵器有蓋高杯1・高杯蓋1・杯身1・杯蓋1・はそう1、円筒埴輪1・蓋形埴輪6、勾玉4・紡錘車2、臼玉8 計 31 点	授業・展示
10	大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器 9 点（壺2・甕2・鉢2・蓋3）、磨製石斧 5 計 14 点	授業・展示
11	能勢町歴史資料室	上椿遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器甕 1 点 須恵器 4 点（杯身1・杯蓋2・円面硯1）、土師器高杯1 黒色土器椀 2 点、土師器小皿 3 点 弥生土器 8 点（土器片 1・甕 3・無頸壺 1・鉢 1・蓋 1・高杯 1）、土師器 7 点（壺 1・甕 3・器台 1・杯 2）、須恵器 5 点（杯 2・甕 3）、石庖丁 4 点・石斧 3 点・石錘 1 点・石鏃 7 点 計 46 点	能勢町歴史資料室 （能勢町ふるさと会館内） 常設展示

12 豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器椀 7 点・瓦器片 20 点、土師 皿 4 点、須恵器片 3 点、砥石 1 点 計 35 点	豊能町立郷土資料館 常設展示
13 吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦点 1、平瓦 1 点、緑釉陶器片 2 点、緑釉瓦片 6 点、 窯道具 6 点 計 16 点	常設展示 『桓武朝平安宮瓦窯』
14 藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅1点 計1点	図書館展示室 常設展示
15 堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器 33 点（椀 27・皿 6)、土師器皿 1 点、瓦質羽釜 1 点、鋳型片 29 点、鞴羽口 18 点、鉄製刀子 1 点、青銅製品 2 点、鉄塊系遺物 7 点、砥石 7 点 計 99 点	常設展示 『河内鋳物師』
16 太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具（レプリカ）一式 計 1 式	常設展示 （第2展示室）
17 池上曽根弥生学習館	池上曽根遺跡	炭化米（No.286）1ケース 計 1 ケース	常設展示
18 和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曽根遺跡	弥生土器 12 点（高杯 1・壺 7・甕 2・蛸壺形土器 2） 軒丸瓦 6 点・軒平瓦 5 点 有舌尖頭器 2 点、子持勾玉 2 点、滑石製勾玉 1 点・紡錘車 1 点文字瓦6点、軒丸瓦8点、軒平瓦1点、石製巡方1点 平瓦（人物画像）1 点・文字瓦 4 点、軒丸瓦点 1、軒平瓦 1 点 平瓦 2 点・軒平瓦点 1・軒丸瓦 3 点 弥生土器 15 点（甕 1・水差形土器 1・高杯 3・鉢 3・壺 7)、木製品 24 点（男茎＜レプリカ＞1･広鍬＜レプリカ＞1･高杯 1･把手付鉢 1･鉢 1･斧の柄 1・布巻具 1・用途不明品 1・小型四脚付盤 2・臼 1・臼＜レプリカ＞1・杓子 2・杓子＜レプリカ＞1・鍬 3・鍬＜レプリカ＞1・簪 5)、石製品 23 点（錘 2・大型石庖丁 2・環状石斧 2・石斧 9・石槍 5・投弾 3)、ヒスイ勾玉 1･管玉 5･ガラス玉片 3、イノシシの下顎骨 1･鹿角 1･骨製ヤス 2・骨器未製品 5・銅鏃 2・八稜鏡 1 計 141 点	常設展示
19 宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須恵器 109 点 計 109 点	常設展示コーナー 『考古学研究所』
20 （財）大阪科学技術センター 科学体験館 サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡 池上曽根遺跡	縄文土器 1 点 弥生土器 1 点 計 2 点	常設展示 『くらしの中の放射線利用』
21 吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦 1 点、軒平瓦 1 点、緑釉瓦片 2 点、トチン 2 点 計 6 点	社務所玄関ロビーに展示
22 交野市教育委員会	大谷窯跡	須恵器 24 点　須恵器片 21 袋（遺物袋） 計 45 点（遺物袋数を含む）	常設展示
23 大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器 18 点（椀 13・皿 5)、青磁 4・土釜瓦 6・土師器 11（皿 10・壷 1)、須恵器 11・瓦質皿 2・瓦質釜 2・常滑甕 3・軒丸瓦 3・軒平瓦 2、瓦器椀片・土師器片7袋（遺物袋） 計 69（遺物袋数を含む）	常設展示
24 箕面市立郷土資料館	箕面経塚	和鏡 3 点・壷 1 点、銅銭 4 点、青白磁合子 2 点、青白磁子壺 1 点、褐釉壺 1 点 計 11 点	常設展示
25 奈良国立博物館	新堂廃寺 河内寺 百済寺 高宮廃寺	軒丸瓦 7 点、鴟尾片 2 点、棰先瓦 1 点 軒丸瓦 2、軒先瓦 2 点 軒丸瓦 1 点 軒丸瓦 1 点 計 16 点	常設展示 （西新館考古展示室）

実物資料・複製資料短期貸出

	貸出先（申請者）	遺　跡	資　料　名／点　数	展覧会／掲載図書名称
1	奈良大学	シシヨツカ古墳	ガラス玉 1,067 点 計 1,067 点	成分分析（蛍光X線分析装置による非破壊分析）
2	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	須恵器・瓦・瓦器椀・土師器などコンテナ 18 箱 計コンテナ 18 箱	大阪狭山市立郷土資料館展示
3	堺市博物館	銭塚古墳	円筒埴輪 2 点 計 2 点	秋季特別展『仁徳陵古墳築造－百舌鳥・古市の古墳群からさぐる－』
4	堺市博物館	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器 2 点（椀 1・蓋 1） 計 2 点	秋季特別展『仁徳陵古墳築造－百舌鳥・古市の古墳群からさぐる－』
5	大阪府立近つ飛鳥博物館	総持寺遺跡 みかん古墳 桑原西古墳群 久宝寺遺跡 崇禅寺遺跡 梶遺跡 林遺跡 初田 1 号墳 唐櫃山古墳 陶器千塚 93 号墳 中野北遺跡 寛弘寺1号墳 銭塚古墳 衣ヶ谷古墳 加納古墳 平石古墳群	埴輪・須恵器・土師器 34 点 金属製品・須恵器・土師器 33 点 陶棺・ガラス玉・須恵器・土師器など 68 点 土師器 7 点 埴輪 .・須恵器 16 点 須恵器・石製品 3 点 須恵器・埴輪 3 点 塼一括 埴輪・染付磁器など 11 点 塼 19 点 須恵器1点 鉄製品 38 点 埴輪 3 点 須恵器・耳輪など 17 点 須恵器・金属製品 7 点 金属製品・籠棺・金糸など 119 点 計 380 点（一括を含む）	夏季企画陳列『大阪の古墳』
6	高槻市教育委員会	高槻城跡	金箔押軒平瓦 1 点 計 1 点	秋季特別展『北摂の「戦国時代　高山右近』
7	山梨県立考古博物館	池上曽根遺跡	鳥形木製品（レプリカ）4 点・木製農具 5 点・木製食器 5 点 計 14 点	特別展『卑弥呼時代の黄泉世界～上の平方形周溝墓群発掘 30 周年』
8	大阪府立弥生文化博物館	府中遺跡	弥生土器 16 点（壺 7・甕 3・台付鉢 2・高杯 2・水差形土器 2） 計 16 点	第3回弥生プラザ『おくるうつわ－府中遺跡3号墓に供えられた弥生土器－』
9	大阪府立狭山池博物館	大坂城跡	太閤枡 1 点 計 1 点	『狭山池復活－慶長の改修に見る先端技術』
10	和泉市教育委員会	陶邑窯跡群 TK230- Ⅰ号窯	須恵器 14 点（高杯 1・小皿 2・椀 1・鉢 3・蛸壺 5・双耳壺 1・花瓶 1） 計 14 点	特別展『中世和泉のライフスタイル』
11	大阪府立弥生文化博物館	総持寺遺跡 大庭北遺跡 野々井遺跡	「調」と刻書された須恵器甕 1 点 「美濃」と刻印された須恵器甕 1 点 「門出」と刻書された須恵器 1 点 計 3 点	秋季特別展『大阪の宝物－出土品が歴史を語る－』
12	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡	軒丸瓦 13 点・軒平瓦 1 点・文字書瓦 1 点・戯画描平瓦 1 点・鴟尾 18 点 計 34 点	既往の調査資料の再検討・再整理
13	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡	土製品 7 点・土器 51 点・鉄製品 23 点・石製品 42 点・鍛冶関連 8 点・木製品 42 点・骨角製品 4 点・ガラス玉 50 点・動物骨 21 点 計 248 点	特別展『馬は船に乗って－蔀屋北遺跡の馬飼い集団遺跡から－』
14	大阪府立近つ飛鳥博物館	アカハゲ古墳 お亀石古墳 細井廃寺 南坪池古墳 シシヨツカ古墳	黄褐釉円面硯 2 点 平瓦 1 点 塼 3 点 塼 2 点 須恵器 7 点（四耳壺 1・甕 2・高杯 4）ガラス玉 1037 点・刀装具 18 点（雲龍文金象嵌刀装具・亀甲繋鳳凰文銀象嵌大刀柄頭など）・挂甲小札 28 点・馬具類 16 点（龍文金象嵌鞍金具など）・鉄鏃 10 点・金属製品 17 点・金糸一括・漆塗籠棺 15 計 1,157 点	冬季特別展『ふたつの飛鳥の終末期古墳－河内飛鳥と大和飛鳥』

15 大阪府立近つ飛鳥博物館	太田茶臼山古墳 太田茶臼山Ｃ号陪塚 総持寺 7 号墳 総持寺 10 号墳 総持寺 13 号墳 総持寺 19 号墳 総持寺 27 号墳 総持寺 29 号墳 総持寺 31 号墳 総持寺 38 号墳 総持寺 39 号墳	円筒埴輪 1 点 円筒埴輪 1 点 円筒埴輪 1 点・馬形埴輪 3 点 須恵器杯蓋 1 点・須恵器杯身 1 点・須恵器把手付鉢 1 点 円筒埴輪 1 点 須恵器杯蓋 1 点 須恵器高杯1点 家形埴輪 1 点 鶏形埴輪 1 点 須恵器高杯 2 点 須恵器高杯 2 点・須恵器把手付鉢1点 計 19 点	春季特別展『継体大王の時代ー百舌鳥・古市古墳群の終焉と新時代の幕開けー』
16 岸和田市教育委員会	馬子塚古墳 銭塚古墳 宇度墓古墳 西小山古墳 西陵古墳	斜縁二神二獣鏡 1・管玉 15 点 円筒埴輪 3 点 円筒埴輪 2 点 須恵器 4 点 円筒埴輪 6 点 計 31 点	企画展『泉州の古墳と埴輪』
17 九州国立博物館	蔀屋北遺跡	出土馬剥ぎ取り 1 点 計 1 点	特別展『馬　アジアを駆けた二千年』
18 大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡	木製品 9 点（ササラ状木製品・剣形木製品・琴など） 馬骨 1 点 鹿角製品 2 点（柄頭・鞘尻）当て具 1 点 鉄製品 4 点（刀子・鎌・袋状鉄斧・鏃など） 玉類 2 点（ヒスイ製勾玉・メノウ製勾玉） 土器 11 点（韓式系土器・製塩土器・陶質土器など） 計 30 点	スポット展示『四條畷市蔀屋北遺跡の調査成果ー王権と馬飼ー』
19 八尾市立歴史民俗資料館	萱振遺跡 東郷遺跡	軒丸瓦 2 点・丸瓦 1 点 軒丸瓦 6 点・軒平瓦 2 点・平瓦 3 点・瓦窯窯体片 2 点 計 16 点	春季企画展『八尾の古代寺院を探る』

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

依 頼 者	撮影 掲載 貸出	種　類	遺　跡	資 料 内 容／点 数	目 的／掲載誌
1 株式会社Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1 点 須恵器はそう 1 点 計 2 点	小学5年生向け自宅学習教材『エブリスタディアドバンス小5』
2 新泉社	掲載	写真カラー	アカハゲ古墳 ツカマリ古墳 新堂廃寺 シシヨツカ古墳	全景1点 壇・墳丘 1 点 瓦集合1点 全景 1 点 奥室全景1点 高杯出土状態1点 ガラス玉1点 龍文金銀象嵌鞍金具1点 柄巻銀線1 点 金糸1点 漆塗籠棺内面1点 銀象嵌円頭大刀柄頭1点 石室の仕切り石と礫敷1点 正面全景1点 壇 墳丘1点 計 15 点	『蘇我三代と二つの飛鳥』
3 中経出版社	貸出 掲載	写真カラー 写真モノクロ	南花田遺跡	遺構群 1 点 縦長ナイフ形石器 1 点 計 2 点	『ためになる古代日本史』
4 真陽社	掲載	図面 文章等	金山古墳 松岳山古墳	『金山古墳および大藪古墳の調査』 『河内松岳山古墳の調査』他	『小林行雄考古学選集』第2巻
5 新人物往来社	掲載	写真モノクロ	津堂城山古墳	石棺1点 計 1 点	『古代史を書き換える 21 の新・争点』
6 新泉社	掲載	写真カラー	挟山遺跡	住居状遺構1点 計 1 点	『旧石器時代入門』
7 東京法令出版株式会社	貸出 掲載	写真カラー	復原須恵器窯 はさみ山 三ツ塚古墳	全景 1 点 住居状遺構 1 点 修羅出土状況1点 計 3 点	中学歴史資料集『グラフィックワイド歴史』
8 清文堂出版株式会社	貸出 掲載	写真モノクロ	大坂西町部奉行所	大坂城総構・西町奉行所発掘調査 8 点 計 8 点	『大坂西町奉行新見正路日記』
9 株式会社日本標準	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1点 計 1 点	『楽しく調べる日本の歴史』第 1 巻（旧石器～古墳時代）

10	駿台史学会	掲載	写真カラー	高井田廃寺	「玉作マ飛鳥評」文字瓦 1 点 計 1 点	「『大伴五十戸』と記銘された軒丸瓦」『駿台史学』137
11	日本考古学協会	掲載	図面	喜志遺跡 寛弘寺遺跡	石器接合資料の実測図 1 点 石器接合資料の実測図 1 点 計 2 点	「近畿地方における縄文・弥生時代の剥片剥離技術」『日本考古学』第 28 号
12	堺市博物館	貸出 掲載	写真カラー	土師の里遺跡 銭塚古墳 北玉山古墳	全景 2 点・住居跡 2 点・遺物出土状態 1 点 銭塚古墳第8トレンチ 2 点・埴輪集合 1 点 北玉古墳 5 点 計 13 点	秋季特別展『仁徳陵古墳築造－百舌鳥・古市の古墳群からさぐる－』
13	堺市博物館	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群 TK73 号窯	窯跡検出状況 2 点 計 2 点	秋季特別展『仁徳陵古墳築造－百舌鳥・古市の古墳群からさぐる－』
14	高槻市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	高槻城跡	金箔押軒平瓦 1 点 計 1 点	秋季特別展『北摂の「戦国時代　高山右近』
15	個人	貸出 掲載	写真カラー	はさみ山遺跡	旧石器時代の住居跡 1 点・住居跡復元 1 点 計 2 点	インターネットのホームページでの旧石器時代遺跡紹介
16	堺市立久世小学校	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群 TK73 号窯	須恵器集合 1 点 全景 1 点	100 周年記念誌に歴史資料として掲載
17	山梨県立考古博物館	貸出 掲載	写真カラー	池上曽根遺跡	鳥形木製品 1 点・木製農具 1 点・木製食器 1 点 計 3 点	特別展『卑弥呼時代の黄泉世界～上の平方形周溝墓群発掘 30 周年』
18	兵庫県立考古博物館	貸出 掲載	写真カラー	菩提池西遺跡	船形埴輪 1 点 計 1 点	ふるさと発掘展『アメノヒボコの考古学』
19	窯業史研究会	貸出 掲載	写真モノクロ	陶邑窯跡群 TK230- Ⅰ	出土須恵器 25 点 計 25 点	『平安時代における須恵器の生産・流通と消費』
20	大阪府立弥生文化博物館	掲載	写真モノクロ 写真カラー	府中遺跡	調査区全景 1 点・3 号墓調査状況 1 点・供献土器出土状況 1 点 計 3 点	第3回弥生プラザ『おくるうつわ－府中遺跡3号墓に供えられた弥生土器－』
21	大阪府立狭山池博物館	貸出 掲載	写真カラー	大坂城跡	太閤枡 6 点 計 6 点	『狭山池復活－慶長の改修に見る先端技術』
22	藤井寺市郷土研究会	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳 土師の里遺跡	修羅出土状況 1 点 竪穴住居検出状況 1 点 計 2 点	文化財写真パネル展
23	四條畷市教育委員会	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	ガラス玉・石製品集合 1 点 計 1 点	特別展『馬は船に乗って－蔀屋北遺跡の馬飼い集団遺跡から－』
25	羽曳野市教育委員会	貸出 掲載	図面 日誌	庭鳥塚古墳 東阪田遺跡	墳丘測量図 1 点 立会調査日誌　2 点 計 3 点	『庭鳥塚古墳調査報告』
24	大阪府立弥生文化博物館	撮影 掲載	写真カラー	総持寺遺跡 大庭北遺跡 野々井遺跡	「調」と刻書された須恵器甕 1 点 「美濃」と刻印された須恵器杯 2 点 「門出」と刻書された須恵器 3 点 計 6 点	秋季特別展『大阪の宝物－出土品が歴史を語る－』
26	柏原市教育委員会	貸出 掲載 実測	写真カラー 写真モノクロ	鳥坂寺跡	軒丸瓦 13 点・軒平瓦 11 点・文字書瓦 1 点・戯画描平瓦 1 点・鴟尾 18 点 計 44 点	既往の調査資料の再検討・再整理
27	河内長野市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー 図面	高向神社南遺跡	空中写真 2 点・遺構図 2 点 計 4 点	報告書作成
28	四條畷市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	讃良郡条里遺跡 蔀屋北遺跡	えぶり 2 点・卜骨出土状況 1 点 鉄製品 1 点・琴柱集合 1 点・全景（航空写真）1 点・遺構検出状況 8 点　遺物出土状態 8 点・遺物 9 点（滑石製石製品など） 計 31 点	特別展『馬は船に乗って－蔀屋北遺跡の馬飼い集団遺跡から－』
29	池田市立歴史民俗資料館	掲載	写真カラー	宮の前遺跡	ナイフ形石器 1 点 計 1 点	『続池田学講座』
30	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1点 計 1 点	「国府ふるさと　第 1 回こくふロマン交流祭 2009」のポスター
31	株式会社吉川弘文館	掲載	写真カラー	蕃上山古墳	男子人物形埴輪 1 点 計 1 点	『日本衣服史』
32	築地書館株式会社	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況1点 計 1 点	『イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか』
33	株式会社フォト・オリジナル	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器甕 1 点 計 1 点	中学生社会科教材『中学実力練成テキスト：歴史』

34	韓国 KBS 全州総局	貸出 掲載	写真カラー	シシヨツカ古墳 加納 2 号墳 平石古墳群	須恵器壷 1・須恵器高杯 4 黒塗大刀 1 全景航空写真 1 計 7 点	『1400 年の孤独、弥勒寺の舎利荘厳』
35	株式会社六一書房	掲載	写真モノクロ	御旅山古墳 北玉山古墳	鏡 11 点（内行花文鏡・獣帯鏡・珠文鏡など） 捩文鏡 1 点 計 12 点	『古墳時代倣製鏡の研究』
36	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー 写真モノクロ	平石古墳群 アカハゲ古墳 ツカマリ古墳 お亀石古墳 シシヨツカ古墳	全景 2 点 全景 3 点 墳丘・石室等 6 点 平瓦 1 点 全景 1 点・埋葬施設等 6 点 遺物 19 点（ガラス玉・刀装具・金糸など） 計 37 点	冬季特別展『ふたつの飛鳥の終末期古墳－河内飛鳥と大和飛鳥』
37	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	アカハゲ古墳 細井廃寺	黄褐釉円面硯 2 点 塼 1 点 計 3 点	冬季特別展『ふたつの飛鳥の終末期古墳－河内飛鳥と大和飛鳥』
38	個人	掲載	論文	新堂廃寺	「奈良時代における新堂廃寺の造瓦組織」（大阪府教育委員会 2001『新堂廃寺』）	『国分寺瓦の研究』
39	岸和田市教育委員会	撮影 貸出	計測	馬子塚古墳	斜縁二神二獣鏡 1 点 計 1 点	『岸和田市文化財調査報告書』
40	河内長野市教育委員会	貸出 掲載	図面 写真カラー	はさみ山遺跡 南花田遺跡	旧石器時代の住居跡 1 点 住居跡状遺構 1 点 イラスト原画 2 点（『大阪誕生　旧石器・縄文時代』 計 4 点	『図説　河内長野市史』
41	河内長野市教育委員会	貸出 掲載	図面	はさみ山遺跡	イラスト原画 2 点（『大阪誕生　旧石器・縄文時代』） 計 2 点	『図説　河内長野市史』
42	滋賀県立安土城考古博物館	貸出 掲載	写真モノクロ	蕃上山古墳	航空写真 1 点・全景点 1・蓋形埴輪 1 点 計 3 点	平成 22 年度春季特別展『古墳時代の王権と祭祀－導水施設と埴輪群像』
43	堺市市長公室広報部	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合写真 1 点・樽形はそう 1 点・把手付椀 1 点 計 3 点	『グラフさかい view』第 68 号
44	有限会社ブルボンクリエイション	掲載	写真カラー	大坂城跡	太閤枡 1 点 計 1 点	歴史群像シリーズ『石田三成』
45	株式会社 Z 会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合写真 1 点・樽形はそう 1 点 計 2 点	小学校5年生通信添削用自宅学習教材
46	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真カラー	太田茶臼山古墳 C 号陪塚 総持寺遺跡	円筒形埴輪 1 点円筒形埴輪1点 埴輪集合 1 点・須恵器集合 1 点 計 4 点	春季特別展『継体大王の時代－百舌鳥・古市古墳群の終焉と新時代の幕開け－』
47	岸和田市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー 写真モノクロ	銭塚古墳 西小山古墳	埴輪列検出状況1点 埴輪列検出状況1点 計 2 点	企画展『泉州の古墳と埴輪』
48	九州国立博物館	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	出土馬馬骨剥ぎ取り 1 点 計 1 点	『馬　アジアを駆けた二千年』
49	個人	掲載	写真カラー	箕面経塚	和鏡 3 点・銅銭 4 点・青白磁合子 3 点・褐釉壷 1 点 計 11 点	「経塚」と箕面－如法経のルーツをさぐる」『箕面史學會』
50	窯業史研究会	撮影 掲載	写真モノクロ	陶邑窯跡群 TK230- Ⅰ	須恵器壷 2 点・須恵器高杯 2 点 計 4 点	『平安時代における須恵器の生産と流通 』
51	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	青山 4 号墳 墓山古墳 蔀屋北遺跡 津堂城山古墳	猪形埴輪 1 点 人物埴輪 1 点 馬骨出土状況 1 点 石棺出土状況 1 点 計 4 点	世界文化遺産登録をめざす古市古墳群紹介パンフレット
52	株式会社東京美術	掲載	写真カラー	陶邑深田 陶邑窯跡群 （TG225 号窯）	樽形はそう 1 点 四耳壷 1 点 計 2 点	『もっと知りたい　日本のやきもの～鑑定入門』
53	大阪市立大学	貸出 掲載	図面 写真カラー	玉手山1号墳 玉手山A－１号墳 片山廃寺跡 玉手廃寺跡	墳丘測量図・丘陵地形図等 5 点 調査前 1・完掘状況 1 点 完掘状況 1 点 完掘状況 1 点 計 9 点	『玉手山 1 号墳の研究』

資料閲覧

	申 請 者（所 属）	遺　跡	資 料 内 容	目 的
1	羽曳野市教育委員会	墓山古墳	円筒形埴輪	学術研究
2	京都大学大学院	府中遺跡・豊中遺跡・板原遺跡	縄文土器	学術研究
3	堺市博物館	土師の里遺跡・銭塚古墳	円筒棺・円筒形埴輪	展示
4	京都大学大学院	府中遺跡・豊中遺跡	縄文土器	学術研究
5	京都大学大学院	弁天山D1号墳	鉋・鎌・斧・鑿・刀子	学術研究
6	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	学術研究
7	箕面市教育委員会	箕面経塚	和鏡・青白磁合子・褐釉壺・銭貨	展示
8	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	学術研究
9	立命館大学・京都大学	和泉寺	土師器	学術研究
10	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器椀・土師器・瓦	展示
11	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	学術研究
12	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	学術研究
13	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器椀・土師器・瓦	展示
14	大阪市立大学	玉手山古墳群・玉手廃寺・片山廃寺	図面・写真	学術研究
15	京都大学大学院	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
16	個人	新堂廃寺	鴟尾	学術研究
17	京都大学大学院	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
18	東京都埋蔵文化財センター	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
19	静岡歴史民俗研究会	応神古墳外堤	基準資料	学術研究
20	堺市博物館	銭塚古墳・北玉山古墳・土師の里遺跡	写真資料	展示
21	羽曳野市教育委員会	淡輪遺跡・西小山古墳	蓋形埴輪・円筒形埴輪	学術研究
22	大阪樟蔭女子大学	大坂城跡・西町奉行所	写真	出版
23	（財）東大阪市施設利用サービス協会	西鴻池遺跡	図面・写真	学術研究
24	大阪府立狭山池博物館	大坂城跡	太閤枡	展示
25	（財）大阪市文化財協会	崇禅寺遺跡	瓦・陶磁器類	学術研究
26	大阪大学大学院	津堂遺跡	土師器・須恵器	学術研究
27	（財）大阪市文化財協会	崇禅寺遺跡	瓦・陶磁器	学術研究
28	京都大学大学院	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
29	京都大学大学院	陶邑窯跡（TK13）	須恵器	展示
30	京都大学大学院	陶邑窯跡	須恵器	学術研究
31	高槻市立しろあと歴史館	高槻城跡	金箔押軒平瓦	展示
32	京都大学大学院	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
33	堺市立久世小学校	陶邑窯跡群	須恵器集合写真	出版
34	和泉市いずみの国歴史館	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	展示
35	柏原市教育委員会	鳥坂寺跡	金銅製品・三彩陶器・緑釉陶器	学術研究
36	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡・讃良郡条里遺跡	琴柱・鉄製品・船材 他	展示
37	大阪府立狭山池博物館	大坂城跡	枡	展示
38	和泉市いずみの国歴史館	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	展示

39	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
40	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	瓦	学術研究
41	羽曳野市教育委員会	西小山古墳	蓋形埴輪	学術研究
42	大阪府立弥生文化博物館	総持寺遺跡・野々井遺跡・大庭北遺跡	刻書須恵器	展示
43	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡	写真資料	展示
44	岡山大学大学院	八尾南遺跡	縄文土器	学術研究
45	国立歴史民俗博物館	陶邑窯跡（TK13・TG207・KM12）	須恵器	展示
46	（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所	北岡遺跡・誉田白鳥遺跡・青山遺跡	石器	学術研究
47	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	瓦	学術研究
48	駒沢大学	蔀屋北遺跡	韓式系土器	学術研究
49	九州大学文学部	檜尾塚原2号墳	陶棺	学術研究
50	羽曳野市教育委員会	淡輪遺跡・西小山古墳	蓋形埴輪	学術研究
51	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	軒平瓦	学術研究
52	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	軒平瓦	学術研究
53	京都府立大学大学院	シシヨツカ古墳	小札類	学術研究
54	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
55	（財）大阪府文化財センター	ツゲノ遺跡	土師器	学術研究
56	広島大学埋蔵文化財調査室	津堂遺跡・谷川遺跡・大庭北遺跡・余部遺跡・はさみ山遺跡・蔀屋北遺跡	瓦器椀	学術研究
57	広島大学大学院	堂山 3 号墳・野々井南遺跡・野々井 25 号墳・陶邑窯跡群（KM245）	陶棺	学術研究
58	京都大学大学院	藤の森古墳	ガラス玉	学術研究
59	立命館大学大学院	池上曽根遺跡	弥生土器	学術研究
60	立命館大学大学院	池上曽根遺跡	弥生土器	学術研究
61	大阪大谷大学大学院	御旅山古墳	鏡	学術研究
62	南山大学大学院	陶邑窯跡群（TK 73）	須恵器	学術研究
63	九州大学	桑原遺跡・陶邑窯跡群	陶棺	学術研究
64	京都大学大学院	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
65	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	軒平瓦	学術研究
66	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
67	帝塚山大学大学院	崇禅寺遺跡	軒平瓦	学術研究
68	大阪大学	陶邑窯跡群（TG40 ―Ⅲ・TG ― 70・TG 214・TG 43 ―Ⅱ）	須恵器	学術研究
69	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	平瓦・軒丸瓦	学術研究
70	関西縄文文化研究会	更良岡山遺跡・西大井遺跡・西福井遺跡	縄文土器	学術研究
71	帝塚山大学大学院	高槻城跡	軒平瓦	学術研究
72	立命館大学大学院生	池上曽根遺跡	弥生土器	学術研究
73	奈良文化財研究所	淡輪遺跡・鳳東町４丁遺跡	須恵器（泉北考古資料館基準資料）	学術研究
74	大阪大谷大学	大和川今池遺跡	瓦	学術研究
75	大阪府立近つ飛鳥博物館	シシヨツカ古墳・アカハゲ古墳・細井廃寺	金属製品・黄褐釉円面硯・塼	展示
76	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館基準資料）	学術研究

77	交野市教育委員会 奈良文化財研究所研究所	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	展示
78	奈良文化財研究所 京都大学大学院	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
79	大阪府立近つ飛鳥博物館	アカハゲ古墳・細井廃寺・お亀石古墳	平瓦	展示
80	奈良文化財研究所 京都大学大学院	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
81	（財）交野市文化財事業団 奈良文化財研究所	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
82	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡・讃良郡条里	馬剥ぎ取り遺構	展示
83	京都大学大学院	府中・豊中遺跡	縄文土器	学術研究
84	国立歴史民俗博物館	蔀屋北遺跡 陶邑窯跡群（TK13・TG207・KM12）	馬具・韓式系土器 須恵器	展示
85	京都大学	府中・豊中遺跡	縄文土器	学術研究
86	大阪府立近つ飛鳥博物館	総持寺遺跡・桑原遺跡	須恵器・円筒形埴輪・家形埴輪	展示
87	大阪府立狭山池博物館	河合遺跡	木製品・須恵器・土師器	展示
88	個人	箕面経塚	和鏡・青白磁合子・褐釉壺・銭貨	学術研究
89	京都大学考古学研究室	更良岡山遺跡・淡輪遺跡	縄文土器	展示
90	京都大学 奈良文化財研究所	陶邑窯跡群（TK 230 ― Ⅰ）	須恵器	学術研究
91	伽耶文化財研究所	蔀屋北遺跡	壷・製塩土器・平底鉢・U 字形土製品	学術研究
92	岸和田市教育委員会	馬子塚古墳・銭塚古墳・宇土墓古墳・ 西小山古墳・西陵古墳	銅鏡・管玉・円筒形埴輪・蓋形埴輪	展示
93	交野市教育委員会	大谷北窯跡・交野車塚	須恵器・土師器	展示
94	羽曳野市教育委員会	淡輪遺跡・西小山古墳	衣笠型埴輪	学術研究
95	同志社大学大学院	上遺跡・田井中遺跡	石器	学術研究
96	大阪大谷大学	大和川今池	瓦	学術研究
97	松戸市立博物館	蔀屋北遺跡	製塩土器・平底鉢・U 字形土製品	展示
98	八尾市立歴史民俗資料館	東郷遺跡	瓦	展示
99	同志社大学大学院	田井中遺跡	石器	学術研究
100	関西大学	千里丘遺跡	石器	学術研究
101	川西古代学友の会	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館基準資料）	学術研究
102	岸和田市教育委員会	馬子塚古墳	斜縁二神二獣鏡	学術研究
103	東京国立博物館	津堂城山古墳・誉田御廟山古墳	TK230 ― I 号窯）	学術研究
104	奈良文化財研究所 （財）交野市文化財事業団	陶邑窯跡群	TK230 ― I 号窯	学術研究
105	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器椀・土師器・瓦	展示
106	宮内庁書陵部	応神陵古墳外提・宇度古墳・西陵古墳・ 西小山古墳	円筒形埴輪 円筒形埴輪・須恵器	学術研究
107	日本ミュージアム・マーケティング学界	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館基準資料）	展示
108	日本博物館学会	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館基準資料）	学術研究 展示
109	岡山県瀬戸内市立邑久中学校	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館基準資料）	学術研究

平成 21 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

課長 ── 保存管理グループ

【文化財保護課】
TEL 06（6941）0351（代表）

── 指定文化財グループ

調査管理グループ	資料総括	主査	平田喜一	積算及び竣工検査等
分室長（参事）	主査　宮野淳一	主査	三宅正浩	遺物整理、泉北考古資料館協力等
玉井　功				写真・保存処理、資料貸出等
		主査	山上　弘	センター指導・調整、事業量調査等
		主査	亀島重則	遺物整理等
		副主査	藤田道子	遺物整理
調査第一グループ	調査第一総括	主査	小林義孝	発掘調査・調整・指導（豊能・三島）
調査第一補佐	主査　藤永正明	主査	岡本敏行	発掘調査・調整・指導（中・北河内）
渡邊昌宏		主査	松岡良憲	発掘調査
		主査	大楽康宏	発掘調査
	調整第一総括	主査	宮崎泰史	発掘調査
	主査　広瀬雅信	副主査	横田　明	発掘調査
		技師	岩瀬　透	発掘調査
		技師	小川裕見子	発掘調査
		専門員	久米雅雄	古文書の整理
調査第二グループ	調査第二総括	主査	橋本高明	発掘調査・調整・指導（南河内）
調査第二補佐	主査　西口陽一	主査	三木　弘	発掘調査・調整・指導（泉州）
大野　薫		副主査	服部文章	発掘調査
		副主査	山田隆一	発掘調査
	調整第二総括	副主査	杉本清美	発掘調査
	主査　小山田宏一	副主査	土屋みづほ	発掘調査
		技師	阿部幸一	発掘調査
		技師	西川寿勝	発掘調査
		専門員	藤澤眞依	発掘調査

【文化財調査事務所】
TEL 072（291）7401

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 14
発行日　平成 22 年 11 月 30 日
発　行　大阪府教育委員会
〒 540-8571
大阪市中央区大手前 2 丁目
℡ 06-6941-0351（代表）
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒 590-0105
堺市南区竹城台 3 丁 21-4
℡ 072-291-7401
印　刷　（株）近畿印刷センター
〒 582-0001
柏原市本郷 5 丁目 6 番 25 号
℡ 072-972-5918